明治二十六年三月十五日發兌

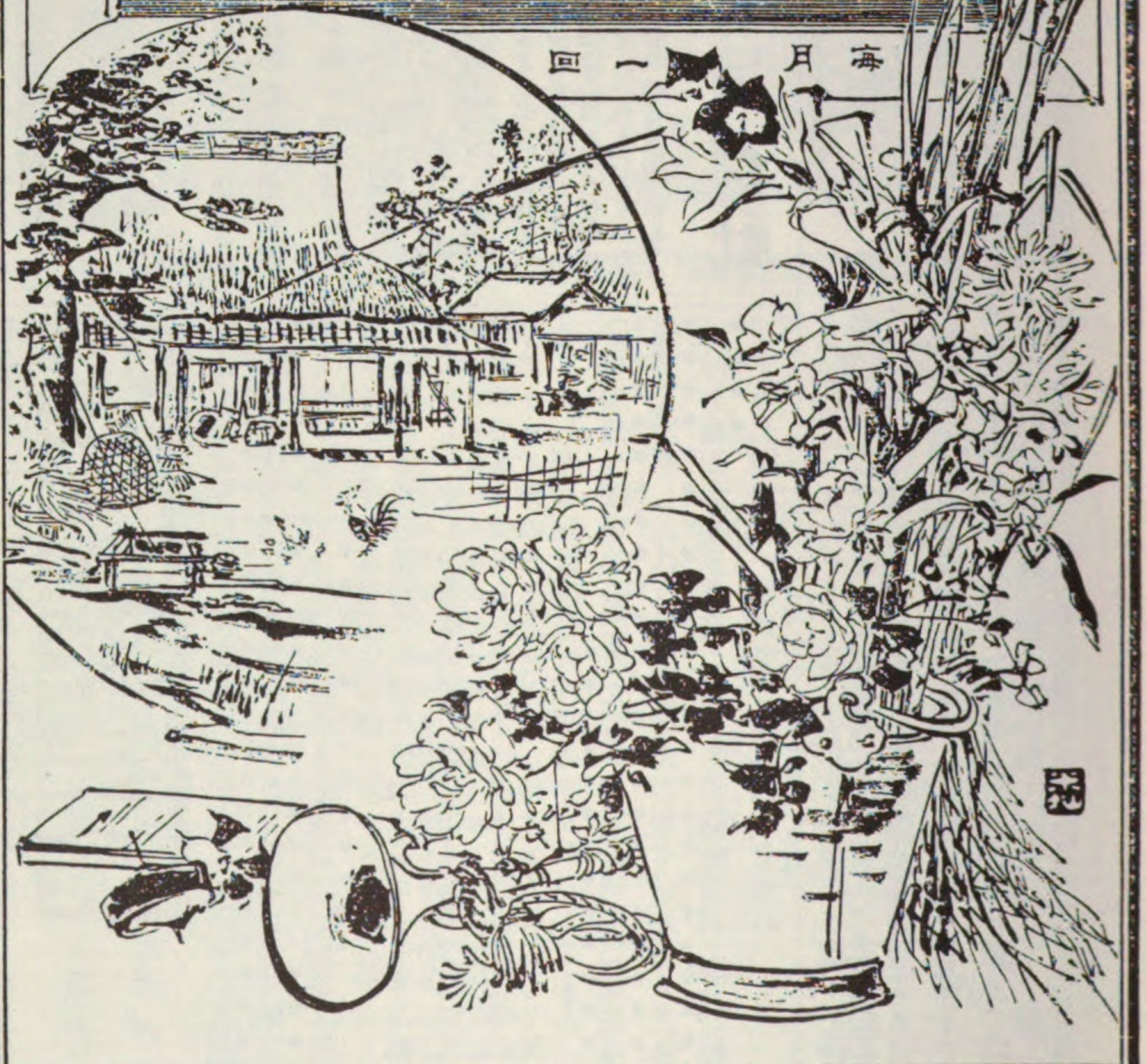
THE HOME JOURNAL

家庭雜誌

東京家庭雜誌社發兌

每月一回

定價金五錢



第七號

平民叢書

每月一回發兌

每月一回發兌、一册讀切、十卷完結、洋裝美本、一册定價十二錢、郵稅二錢、十册前金一圓、郵稅廿錢

平民叢書は目下我平民社會の急需に應じ平易適實の文字を以て世界の新思想新智識新現象を紹介す。。。。。●●●●●●●●るもの也本月十九日より發賣する第一卷は即左の

平民叢書第一卷 十九世紀の大勢

十九世紀の平民の尤も先づ知らざる可からざるは十九世紀の大勢なり十九世紀の大勢は本書之を說明し論斷して餘蘊なし加ふるに本書は泰世今代諸名家の卓論名說に漁撈し筆を十八世紀の大勢より起して延ひて來る可き第二十世紀に論及したるものなれば一たび此篇を繙く者は十九世紀の大勢の來る所趨く所を了知し得て火を覩るよりも明らかならん

發兌元 東京市京橋區日吉町四番地 民友社

佛國ブーミー著 深井英吾譯

英米佛比較憲法論

定價十五錢 郵稅四錢

○英米佛比較憲法論は萬國憲法中尤も發達せる英米佛三國の憲法の精を拔き粹をあつめ比較酌量して論述したるものにして今後愈善美なる立憲政治を擁立す可き山の如き責任ある我國民の必一讀す可き所也

○英米佛比較憲法論は佛國政治學大家ブーミー氏の原著にかゝり曾て我憲法制定の時に當り其著書は頗る當局者の參考に供せられたりとの評ある英國政治學の泰斗ダイシー氏の如き之を激賞し特に夫人に命して英譯せしめし程なれば價値は不言の中に明らかならん

○英米佛比較憲法論は原文極めて簡潔明快譯文亦直截簡明を旨としたれば普通法律書の如く佶屈聱牙無味乾燥砂を嚙むか如き患なく何人も快誦流讀以て其妙味を了す可し讀者親く卷に對して其然るを知れ

漢北生著

ワシントン傳

全一冊 定價八錢

ワシントン傳の少年に必要なる呶々を待たず此書其大業を遂げたる顛末、英雄たるの資格を說き盡くして餘縕なく質實なる偉人と面あたり見るが如し。凡そ英雄は學ぶべきあり。學ぶべからざるあり學ぶべからざるを學ばゞ虎を畫きて猫に類するの禍あり、ワシントンに至りては何人も學ぶべく、學ばざるべからず。少年、諸氏一本を購ふて品質を練磨せば成功决して難からず

發賣所 民友社

竹越與三郎著

新日本史

上卷四百頁餘●中卷三百頁餘

上卷 七版 四十錢

中卷 再版 三十錢

郵稅各六錢

新日本は國史中の大變革なるのみならす、實に世界の歷史に於ける大事實也。新日本史は幕府の中世に遡つて新日本の由來を尋ね、之を考ふるに學者の深識を以てし、之を斷ずるに政治家の活識を以てし、滔々序し去り序し來り、廿三年國會の開設に至つて已む。眞に是れ明治年間有數の一大活史也。而して其史躰たるや東西を混化せる新躰にして、序事あり、議論あり、編年史躰あり、文明史躰あり、人物論あり、傾向あり、逸事あり、上は政變外交より、下は社會、學問、思想、財政、宗敎の變遷に至りて盡さゞるなく、苟も之を繙かば新日本なる一大パノラマの中心に立ちて四方を望むか如く遠景、近光、歷々として掌中に入るべし。森田思軒居士は之を以て愛蘭黨の首領マッカルテーの大英近代史に比し、早稻田文學は之を以て和譯せるマコーレー史を讀むの心地ありと評す、亞細亞は議論大膽、曖昧の處なしと評し、寸鐵はウエルベル的敍事とマコーレー的評論を兼ねたりと爲す。其文の堂々平として大家の風を具へたることを以て知るべき也。而かも其文字平易にして婦人にも老人にも一讀即ち解せられ萬民に讀誦せらるべき平民的歷史たるを失せざる也。若しそれ其事實に至ては一々之を主動者に質したれは的確にして動かすべからす。今や上卷は七板を重ね中卷は三板を重ぬ。以て其如何に天下に喝采せられしかを知るべし、苟も天下の形勢に通じ、社會思想の變遷に通ぜんと欲するの士幸に一讀を惜しむ勿れ

發兌元 民友社

東京京橋區日吉町四番地

●大賣捌

○東京●上田屋●東京堂●東海堂●巖々堂○大坂●吉岡●梅原●嵩山堂○西京●便利堂●東技律●飯山信文堂●鈴木○神戸●吉岡支店●船井○熊本長崎○鹿兒島吉田○長崎安中○博多積善館○前橋嚶呼堂

徳富猪一郎編纂　久保田米僊畫

四版

誕生日

一冊金十五錢　郵税二錢

○斯書は父母兄弟姉妹朋友の誕節を記臆せんが爲め其の誕生日を記錄する冊子也

○巻中の一面には餘白を剩して其の人々をして自から其の姓名を誕節に相當する月日の欄內に記錄せしむるを得可し是れ獨り其の誕生日を記錄するのみならず併せて父母兄弟姉妹朋友の手蹟帳たるを得可し

○他の一面には東西の聖經賢傳詩歌金言を掲げ以て晨夕の諳誦に供す

○又た米僊子の清淡奇邁なる一年の期節に相當する細畫七十餘を插めり

○冊子小なりと雖淡麗清楚且つ各種の便宜備る金蘭簿たるを得可く備亡錄たるを得可く金誠集たるを得可く又た文苑繪畵の奇觀たるを得可し何人も一本を持す可き要書と信ず

徳富猪一郎序文　竹越與三郎編纂

格朗穵

定價二十錢　郵税四錢

英國空前絶後の大革命は、新敎徒の革命にあり、而して其首領たるコロムエルの人物に至ては爾來三百年間、歷史上一大疑問たり、此書は十九世紀の文豪、カライル、マコレー、ゴルドウヰン、スミス、フレドリックハリソン等のクロムウエル傳につきて華を拔き英を含み、而して之れを斷するに著者天稟の識力を以てす、其二千年間の一大人物躍然として紙上に現はるゝもの怪しむに足らざる也。其文に至ては詩の如く讀むべく、誦すべし、其議論に至ては明細大膽、以て鑑みるべし。日耳曼リヒテル曰く、大人の傳記は、自由の福音書也と、此書の如き眞乎に是れ自由の福音と稱すべき也。

今や第三版を重ね、讀者陽春の暇日に、爐邊に會して英雄の性情を味はゞ、得る所鮮少ならざるべき也。

國民之友合本第拾壹卷

自第百五十九號至第百七十八號　紙數九百五十四頁　定價七十錢

德富猪一郎著

再版

國民叢書第二冊

人物管見

紙數二百廿一頁　定價金十五錢　郵稅金二錢

直覺の心意、精到深射の眼識、寛裕同感の胸懷、及ひ謹嚴周匝なる事實の摺拾、濶大包括なる四圍の觀察、是等を以て人間を知るに必要なる資格となすは、民友記者の人物論天下に冠たる所以也、何となれば彼れ先づ此の資格を具へて而して後、人を評すれば也、自ら具ふる所之れなくんば、安んぞ之を信ずるを得んや、又た安んぞ之を謂ふを得んや、既に此の資格を具へ、之を信じて而して後、其の得たる所のものを以て、或は批し、或は評す、其の筆精到、其の文明暢、能く描し、能く畫す、紙毫意備はらずと云ふもの、民友記者に於て其の然らざるにあらざるやを思ふ、今や政界の事頗る頻繁、此の間に於て、眞人物の那邊に存するかを知らんと欲せば、請ふ先づ其の人を鑑識するの眼孔を養はんが為に、此の書を把つて讀め、更に文學界の潮勢を察すれば史論の時代としも云ふべきにあらずや、是れ又た如何なる時代に如何なる人物の輩出したりしかを觀察して、之が評論を試むる者、先づ其の瞳睛を明かならしめんが為に、必ず一本を讀まざる可らず、初版既に數千部を賣盡して再版製本したるもの、今の日本に向つて最も缺けたる人物論の模範を與へんと欲するに外ならず、政治家、經世家、學者、文人、及び總べての學生、請ふ愛讀の榮を賜へ、

再版

國民叢書第三冊

青年と教育

定價金十五錢　郵稅二錢

既に「人物管見」に依つて、民友記者の人物論を讀みたるものは、更に其の教育論を讀まざるべからず、「青年と教育」論ずる所何事ぞ、曰く同志社學生諸君に告ぐ、先づ高等中學を廢すべし、多學の弊乎無學の弊乎、學風論、小學の德育、小學校及小學教育、教育界の時事、社會の新原動力、明治の青年と保守黨、心理的老翁、教育界の羅馬法王、博士製造、書を讀む遊民、勞作教育、帝國大學と官吏登用法、少數者の責任、卒業等總て數十篇、是れ豈に時弊を痛慨して、滿腔の熱血を灑ぎたるものにあらずや、今の時に於て青年の教育を誤らば世は徒に俗論黨の左右する所とならんとす、苟も正學以て天下に殉ふる所あらんと欲する教師、若くは學生、何んぞその如何にして人物を薫陶し、如何にして世に立つべく學ぶべきかに心せざる、諸子にして一旦此書を繙かば蓋し其の為さんとし、若くは既に為すべき事の如何にあるべきか、自ら燎然たるものあらん、報知新聞曾つて「青年の為には善導し當路者の為には諷諫す」と評したるもの、豈に之に外ならんや、再版出づ、續々御注文あれかしと祈る、

英國現内閣大臣、國會議員、大學教授ブライス著
人見一太郎譯

平民政治

菊判總紙數二千九百三十四頁
總クロース美製本
ゼームスブライス肖像入

合本二冊正價四圓　運賃二十錢

帝國議會既に閉會したりと雖も本社は特に政治思想の普及を計りて當分の中**特別割引合本二冊賣價二圓五十錢とし運賃は本社自辨**とす但し注文の諸君は必らず**前金拂込を要す**

本書の第十九世紀の尾端に於ける、超群絶倫の**大著述**たることは、歐米諸國の學者、政治家、立法家、新聞雜誌、異口同音に證明する所、今や我邦立憲政軆建設せられ、漸く輿論政治の佳境に進まんとす、此時に於て**堅實、精明、適切、健全なる政治的知識**を得んと欲せば、此書を措いて亦た他に求む可きなし、我社夙に見る所あり、二個年二十個月の歳月を積んで、之を譯成す、譯文の謹嚴、明朗、精確、三千頁に近きも、一字一句の苟もする所なきは、敢て自から公言して憚らざる所、亦た世上具眼者の認むる處、今や帝國議會開會中を期し、**大に價格を減し**、以て我邦政治的知識の普及を計らんとす、是れ聊か吾人が江湖に酬ひんと欲するの微志也、幸に購讀せよ、

宮崎湖處子著
九版

歸省

全一冊
定價十五錢
郵税四錢

歸省は現時清文學の祖なり彼は其純潔なる思想清越なる詩趣流麗なる音調を以て廣漠なる文學界を征服せり彼が世に出しより今に三年人間の齡を以てすれば正に三百年の長壽を保ち版を改むると九回頒つ所殆ど二萬部の多きに垂むとして江湖の需要猶ほ續々として盡きざる者は啻に江湖の彼を愛するの深きに由るのみにあらず抑亦彼が江湖に表する同情の如何に温かなるかを見るに足る、彼は既に家庭、學校、旅行、客舍、到る處の社會に伴はれ彼を讀むものは文學趣味あると否とを問はず皆其慰籍、興味、利益を受け滔々たる流勢、今や歸省を讀まざるものは書生に非ずと云ふに到れり今九版新たに成る。凡そ其の名を聞て未だ之を得るに及ばざる江湖の諸彥後れ來りて悔ると勿れ

五版

一語千金

定價五錢
郵税二錢

大人、豪傑、烈士、哲家の音容に接するは品性修養の第一着歩たり、而して此の一語千金こそ實に此の目的を達する最近手段也、一讀せよ、

德富健次郎譯　美麗なる肖像幷に密畫入

再版

グラッドストーン

紙數二百三十四頁　定價二十錢　郵税四錢

愛蘭自治案は既に英國會に提出せられたり、八十三年の長涯を經て今や一生の冠たる此事業にかゝりつゝある十九世紀第一流の大政治家の活ける寫眞に接せんと欲する者は此傳を讀め、一篇の冊子事實斬新文字流麗條理明晰結構整々、寛灯の下一たび此篇を繙かば恰も白髮の老偉人と相對して親しく其謦咳に接し其自叙傳を聞き、其肺腑を見るの感あらん、以て活摸範たる可し、以て鼓吹者たる可し、以て好伴侶たる可し、

德富猪一郎序文　德富健次郎纂譯

五版

武雷士　全一冊

生巧舘彫刻肖像二葉入

紙數百四十二頁　定價十五錢　郵税四錢

醇良質朴の生涯を送り時に激するあつて峻節を持したる一平民の生涯は應に本篇にかて明なるべし

德富猪一郎序文　德富健次郎纂譯

四版

格武電　全一冊

生巧舘彫刻肖像入

紙數二百十七頁　定價二十錢　郵税四錢

常識の圓滿に膨脹したる巨人は格武電に外ならず若し夫れ武雷土傳を讀んで本篇に入らば激湍逆り怪巖欲ち松柏聳立する山徑を過ぎて平蕪迢々草欣び花笑ふの沃野に出づるの想あらん

德富猪一郎序文　平田久編譯

再版

伊太利建國三傑

全一冊　定價二十錢　郵税四錢

既に伊太利建國三傑を讀みしものは更に此の再版を讀まざるべからず。未た讀まさるものは因より讀まざるべからず。世に不平ある間、壓抑者ある間、改新の必要なる間は、此の如き書は、必らず讀まれざるべからず。本書記する所は革命に必要なる三傑者、革命の豫言者、革命の政治家、革命の俠客の傳記評論也。此書を廣告して人に讀めと云ふの必要なし。故如何となれば此書は自ら讀まれざるべからざるの性質を備へたるものなれば也

發兌元　東京市京橋區日吉町四番地　民友社

家庭雜誌定價表

	前金	郵税共地方
一冊	五錢	五錢五厘
六冊	三拾錢	三拾三錢
拾二冊	五拾錢	五拾六錢

廣告料 二拾四字行數回數に付割引無 **八錢** 本社は前金にあらざれば發送せず爲替は芝口郵便支局宛郵券代用は爲替の無き地に限り一割增しの事

發行兼印刷人　垣田純朗
編輯人　塚越芳太郎

發行所 東京市京橋區日吉町四番地 **家庭雜誌社**

明治二十六年三月十五日發兌

家庭雜誌第七號

目録



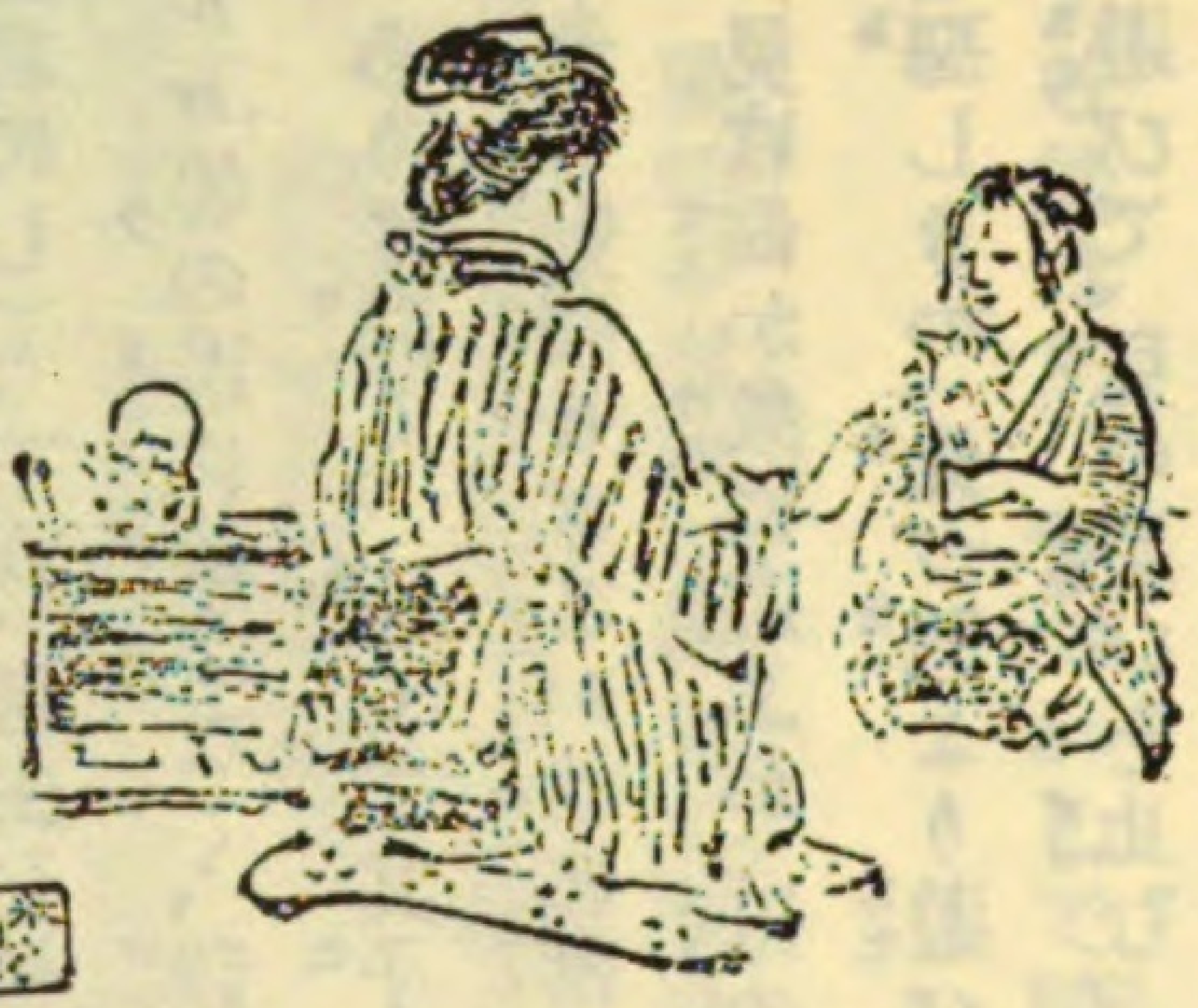
家庭雜誌第七號

（明治二十六年三月十五日發兌）

社説

家庭の快樂

九々生



余は已に中年となれり、讀む所の傳記小説は百巻に下らざる也。去れども最も心に刻て忘れざるは、十一二歳の頃、母が余が總角をなであげながら語り給ふたる太平記新若君の話なり。余は多くの境遇を經たり。然れども心に記して忘るゝ能はざるは、母君兄上に伴ふて、松風颯々たる濱邊に出で、北海の怒濤の、天を打たんばかりなるを見つゝ、貝殻を拾ふの遊にあるなり。指を屈すれば殆ど十六七年、曾遊の地は今なほ現の如く目に見へ、曾て聞きたる太平記は、猶ほ耳邊に讀まるゝが如し。思ふに何人も皆な此種類の忘るべからざる記臆を有するなるべし。余は此事を思ふごとに、少時の敎育の忽にすべからざるを感せずばあらず。

兒童の敎育は、毎々世人の云ふ所なれども、其の如何に實際に怠らるゝかを見ては今更らの如く驚かるゝ也。朝は五時に起き、夜は十時に臥すべしとは、少年が學校にて覺へて歸る所なるに、家に歸れば、父は十二時頃までも夜深かし、兄は午前の九時頃までも熟睡して床を離れず、去りとて母は熟睡せる兄を偏寵して、起すともせず。少年の小供心に、先づ學校の敎への實行すべから

ざるを覺らしむ。是れ其普通なるものなり。甚しきは家の妻君にして、下女、書生を相手として、終夜、トラムプ、カルタ等の遊に餘念なく、雞鳴をきゝて寢につくものすらありと聞く。此くて其子供が學校にて落第するを見るや、勉强せざるが故に落第せるなりとして之を叱す。兒は何か故に遊ぶか。母の所行を見て遊ぶなり。遊ぶと惡しきか、先づ母より遊びを廢せざるべからず。自らは遊びて、兒の遊びを止む。是れ言行不一致の甚しきものにあらずや。此の如き待遇の結果は、小兒をして母の敎旨と行との一致せざるものあるを覺へしむ。是れ其の一端のみ、質素の講義を爲しながら、呉服屋の來るたび毎に新衣を裁し。猥褻なる談話を禁じながら、自らは朝日新聞の第三面に熱心し、浮きたる事は覺ゆべからずと諭しながら、自らは演劇、寄席の話に熱心す。此くて小兒が折角學校にて善き事を覺へ來るも、肝腎なる母の爲めに打ち破はさる。これ今日家庭の通弊にして、此の如き不取締なる敎育を受けたる小兒は終生、其不取締を忘る能はず、何となれば小兒の腦髓は豆腐の如く、軟かく、一たび刻まれたるものは、消すべからざれば也。

此を思ふにつけても、余は先づ家庭の快樂を一變するの必要あるを見るなり。而して家庭の快樂は、多く談話にあり、談話の要旨は古人の傳記、小說に基づくもの多ければ、家庭改頁の第一着步として、母たるものが古への大人君子の傳記を讀み、淸潔なる小說を撰ぶの明を具へんことを望む。父たるものは、此點に於て母を助くること、勿論當然の義務也。

論説

旅行

鐵斧生

世の父母、旅行する時は成る可く小兒を伴ふ可き也。

たとひ多少の煩累を加へ、費用を增すとも、小兒の爲めを思はゞ必ず同伴せよ。若し小兒をすゝめて旅行に上らしむるが如きは親の賢也。せめては己れの童兒が旅行遠足を請ひたる節は之れを抑制する勿れ。無益の心配と、僅少の費用の爲めに之れを制止するは眞實兒を愛するの道に非ず。

『可愛い丶子には旅をさせよ』てふ古諺は、昔も今も理は一ッ。兎角世の親達、をのが子の愛に溺れ少時も手ばなしする能はず、甘やかして膝下に增長の我儘を却て喜ぶ。

旅行は、屋外の空氣と衝突する也。旅行の生活は、世間の人情の險しきを敎ゆ。世渡りは家内の安きが如く安からず、旅行は之れを敎ゆ。

『たびは道連れ世は情』旅行は亦た、四海悉く兄弟の消息を敎ゆ。かの世間見ずの人を見よ、如何に頑固、狹量、小膽なる、かの旅行に慣れし人を見よ、獨立獨行の精神を包むに、温厚和平の情愛を以てす。

旅行は柔弱臆病の小兒を化して、壯健大膽の人たらしむ、旅行は看察力を周密ならしむ。

動物、植物の學、地理、歷史の科、皆な旅行に由て實際實地の智識を添へん。

旅行の利益は其他極めて多かる可し、必ずしも數へず。只だ言ふ可きは、今日吾國の親達は猶ほ地方狹隘の感念の支配を脫する能はず、昔の考へ容易に去らず、少年兒童の旅行遠足などには無頓着なる者多し、無頓着なるはまだしも、少年兒童にして、旅行遠足を企つれば、種々の口實を以て之れを禁制する也、かくては少年の不幸此の上もなし。親達は將に少年をすゝめて宿屋の飯を味はしむ可し。可愛の兒、たびの風にあたる三日、恐らくは眼を刮つて待つて可ならん。

今や冬去り春來り、梅も咲き、櫻も笑はん、霞を穿て登山する可、友を喚んで五日どまりの旅行極めて妙、

或は殘雪を峻嶺の頂に蹈んで、古寺癈院を寂漠の谷間にさぐるは歷史的看察を兼ぬ可し。雪消へ、梅も散り、落花と胡蝶と見違へらるゝ時、萬山の翠滴る時も忽ち來らん。世の父母たる者、此際愛兒をして三疊一間に籠居せしむる勿れ、自由晴空の天地を横行飛舞せしめよ。愛兒の爲めに草鞋、脚袢、一個の行李を修するを吝む勿れ。



科學

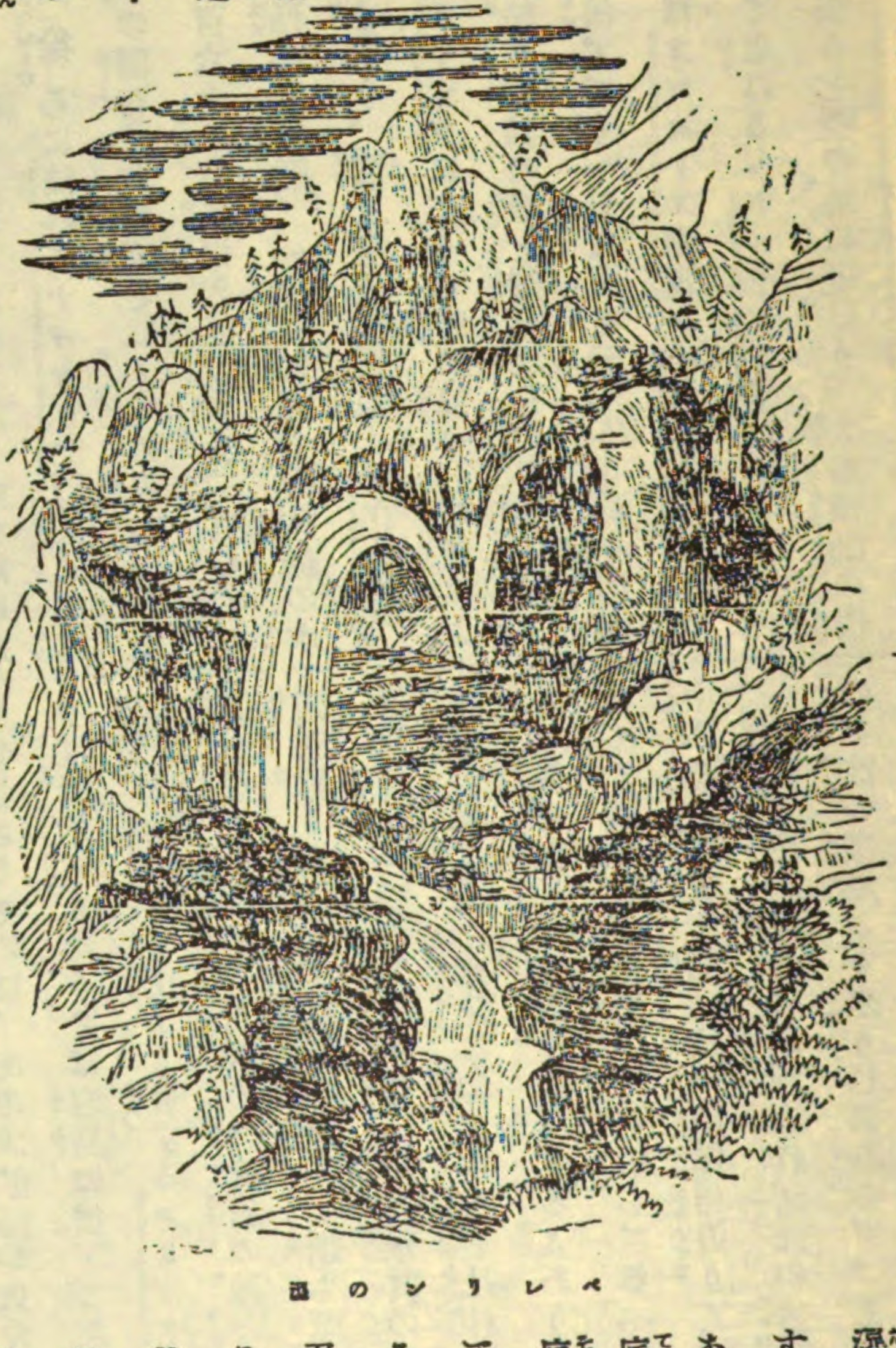
二人の大彫像師（つゞき）

普通の彫像師が閑のすさびに新奇なる工夫を案出して喝采を博する如く、天然の二大彫像師も亦時に不思議なる趣巧を以て人を驚かすことあり。

茲に寫し來りたるは著名なるベレッンの瀑布なり。瑞西に行きし旅行者は此の瀑を見ることを忘るべからず。

アルプス山の高き絶頂より押し流し來るベルリンの氷河あり、融けて水流となり、巖より巖に突き當り、崖より崖に飛び下り、突き當り飛び下る間に非常なる勢力を積み蓄へ、最後の崖に來りたるときは殆んと勢力の一團となり、數萬の細片に碎けよと計りの勢と力とを以て崖下の大磐石を打つ。大磐石は此の力によつて

穿たれ、水は自ら穿ちたる穴に落つるや、直ちに跳ね反り、少なくとも空中六十呎の高さに上り、アーチの形を造り、得も云はれぬ美さと耳を聾する響とを以て下の流れに落つ。上流に於て、岸を砕きて奪ひ來りたる岩、木も共に落ち、共に跳ね返り、アーチの中に交る。大陽の光線若し之に反射するとき其の傍に立つて望めば水は燦々たる七彩を發ち、天使の羽衣を廣げたるが如く、中に交る岩や木は自然の斑紋の如く見へ、上より瞰下せばダイヤモンドの流れの如く見ゆ。



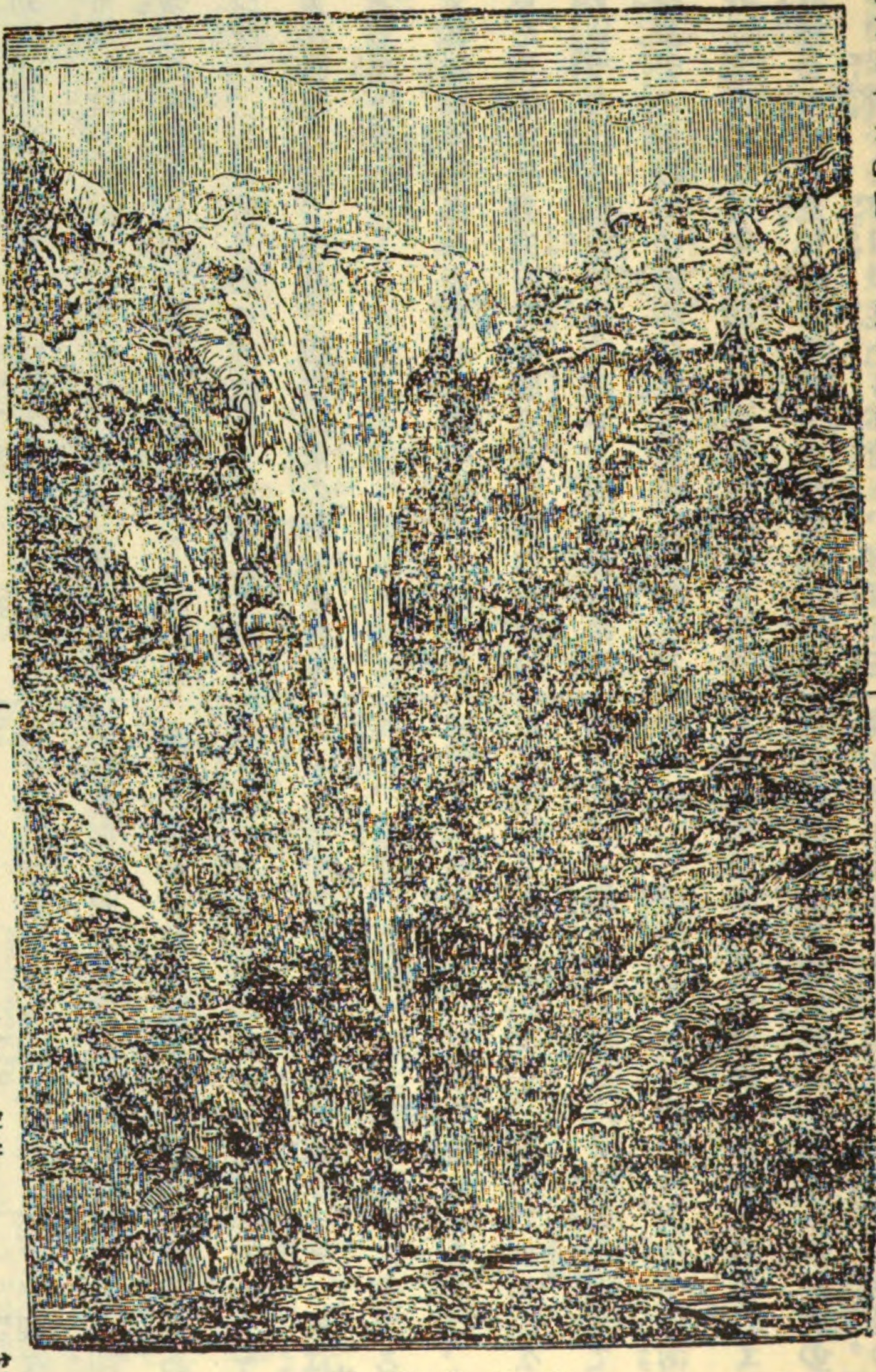
ペレリンの圖

瀑布に就て注意すべきもの二ツあり。勢を以て底面の石を打ち底を弱くして以て其の上に懸れる崖を壊すこと及び流し來りたる小石を以て、其の両岸及び道に當れる岩を打ちて穴を穿ち、更に其の穿ちたる穴に小石を投け入れ、杵を以て搗くか如くして其の穴を深くし、遂に之を破壊し去ること。

かくの如くして水流の「後すざり」するは最も驚くに堪へたり。其の例として最も著しきはナイヤガラ瀑布なり。ナイヤガラ河は平原を流れてイリの大湖に達し、十五哩の間徐ろに流れてナイヤガラの瀑布に達す。ナイヤガラの瀑布は其の高さは人々の思ふか如くには高からず、百六十五呎に過ぎざれども、其の幅は二千七百呎即ち殆んと半哩、一分毎に六十七萬噸の水此處より落て煙となり、霧となると云ふ。チャーレス、ライエル卿がナイヤガラに在りしとき算せし所ろによれは、此の瀑は絶えず其の崖を噛み壞し、平均一年一呎の度を以て「後すざり」をなすと云へり。かくの如くして、大古にはオンタリオ湖頭クインスタウンの立てる邊に在りしと思はるゝナイヤガラ瀑布は、現時クインスタウンを去る七哩の地に退けり。大彫像師の働は甚だ徐々なりとはいへ、暫時も休息せずかくも大なる結果を來せり。

ナイヤガラの水が穿ちたる七哩の大溝渠もコロラド峽に比べては物の數ならず。水の働きの如何に大なるかを知らざるものは、此の大峽路が只た水の力のみによつて出で來りたりとは容易に信ずると能はざるべし。源をロッキー山より發するコロラド河は三百餘哩の間、堅き花崗石、石灰石、砂石の地方を通して、其の道を鑿り開けり。兩岸の巖石は斷ち斬りたるが如く、半哩以上一哩の高さに聳へ、河水其の下を流れ行く。絶壁の頂より、水流に棹さす舟を見れば、小さきこと木の葉の如く、其の中に坐する人ありや、なしやを知らんと欲せば望遠鏡の力を假らざるべからず。水流の中にあつて天を仰げば、兩岸相迫りて、其の間僅かに一條の青色を見るのみ。されど此の大峽路や、大岩石の突然の破壞より來りしにあらず、また大地震の結果にもあらず、今は路の廣き處には靜かに流れ、狹き處には怒つて流るゝ河水が、徐々に、人知らぬ間に、逐

く々と鑿り開きたるにてあるなり。此河の最初の探撿者の一人たるアイブスの曰く、此の比類なき水流の無邊高壯なる有樣を記さんに言葉なし。水流の轉ずる所ろ光景も亦一新す。立派なる樓閣、嚴かめしき宮殿、大劇場、高櫓の城壁、古代の遺跡此等のものは皆兩岸の巖石にて彫造せられたりと。誰か水を稱して彫像師中の最も大なるものと云ふを否むものあらんや。



コロラド峽

されど水の爲す所尚ほ此に盡きず。彼は一の場所に於て地を彫るの外、また一の場所より取り來りたる者を他の場所に置く。此の點に於ては、彼は、彼處より粘土の一塊を取りて此處を補ひ以て一個の形像を作る塑像師に似たるあり。

流るゝ水は常に泥土を運び去ると共に、流るゝ道の彼處此處に之を澱置す。コップに盛りたる水の中に一握の砂を投ずれば、其の粗きものは最も早く沈み細かきものは最も遲く沈むが如く、水の流れ早く、勢强き間は石も砂も泥も皆共に流れ行き、水勢少しく衰ふれば、石先づ沈み、次で粗き砂も亦沈み、水勢愈衰へて細砂もまた徐々として沈み、或は河水の海水と合する處に至つて沈む。

諸君の多くは既に埃及にあるナイル河の歷史を知り居らるゝならん。毎年三月、四月の間、此の河の水源地なるアビシニヤの山々霖雨に浴するや、河水滔々と流れ來り、埃及ナイルの谷に溢れ、泥土を此に澱置し、ナイルの谷は之によつて年々新なる天然の肥料を得、豐かなる收穫を有す。更に多くの泥土は水と共に河口まで運ばれ、年積りて河口の泥土も亦積り、河口に三角形の新陸地を現出せしめぬ。此の新陸地はデルタ（三角島）と稱せらる。名高きアレキサンドリア、ロゼッタ、ダミータなど云ふ都府は、昔の昔より河口まで運搬せられたるナイル泥土の年を經て堅硬なる三角形の陸地となりたる上に建てられたるなり。印度のガンヂス河のデルタは英國本島四分の三の廣袤あり、亞米利加ミスシッピー河のデルタは年々八十六ヤード宛其の大さを增すと、地理家の大家ギーキー氏は云ふ。

埃及、印度、亞米利加其他の國々に生ずる此の新陸地は皆な水の働き也。河水の流し去る土は、此の如く河口に達してデルタとなり、或はデルタとなるの地利を得されば、漸次其が注ぎ入る灣頭を埋めて（隅田川なその如く）淺洲を作る。此の外河水中に溶解せられたる石灰また其の他の物躰は如何に成り行くべき乎。石灰の多量は水中の動物に利用せられて其の貝殼及ひ骨骸を作る爲めに費され、其の幾分は水量の減したるとき地面に凝着す。

されど此等の溶解物が最も美觀を呈すること、水が如何に巧なる塑像師なるかを知らんと欲せば、更に他に往いて探らざるべからず、英國デルビーシャイアーのベックストン近傍にプールの洞と呼ばるゝ洞あり。洞內、全く美麗なる透明の白玻璃の柱を以て作られたるかと疑はる。或るものは天井より、或るものは四方の壁間より懸り、或るものは床上に直立す。此の美觀の如何にして出で來りたるかを原ぬるに、上より點々滴り落つる水はもと岩間をくゞり來れる際、炭化石灰を溶解し來りたるものにして、其の炭化石灰は、極めて少し宛、水の滴るに從ひ點々凝着す。水は每日、每時、每分滴り止まず、凝着せる石灰は益々大となり、白き針の形をなし、細き管の形をなし、棒の大となる。下に落ちたる水も亦、其の落ちたる點に炭化石灰を凝着せしめ、年を逐ふて大となり、時としては上よりのものと下よりのものと相合して一の圓柱となる。我が國にも此の類の洞必ずあらん。曾て大和の大瀧と云へる處の近傍に此の類の小洞ありと聞きたることあり。大彫像師がまた塑像家として現はせる伎倆を窺はんと欲する諸君は便あらば此の類の洞を探られよ。（つゞく）

史談

故ブース夫人の少かりし時（續）

救世軍の母

夫人は少かりし時より自づから救世の志篤かりき。曾て云へることあり「人々の誤まり迷ふを見れば、余は是非共彼の憐れむ可き人々を救へ導かざるを得ず」と。婦人に欠く可からざるは同情なり、救世者に欠く可からざるは同情なり、此同情を夫人は溢るゝばかり有したり。昔し夫人年猶少く、輪と杖とを持ちて道上

を走せ遊び居たりしに、偶ま巡査の一醉漢を拘引し去る者あり。群衆其後より嘲弄して已まず。時に輪と杖とを持ちて遊び居たりし彼少女は、此醉漢の孤身寥々世に一人の友もなげなるを見て、電光の如く彼醉漢の側に走せ寄り、假令其苦厄は自己の過失の結果なりとも或は其不運に出でたりとも、茲に彼に向て同情を有する一個の心あるを知らせんと、之に伴ふて街上を歩み下れり。救世軍の母ブース夫人は實に此一少女に胚胎せりと云ふ可し。

夫人の同情は人間を過ぎて動物にまで及びたり。少幼の時より、動物の苦痛を見れば、心を傷むること限りなく、動物も亦來世ありて此世に於て受けたる苦痛の償報を受く可しなど思ひて纔かに其心を慰めたり。曾て驢馬を馭する一少年の、重やかなる槌もてしたゝかに其驢馬を打ち懲らすを見て、ブース夫人は車より飛び下り、走せ行くとて一たび道に倒れたれ共、また飛び起きて驢馬馭者に追ひつき、大に其殘刻を警戒め、槌をとり上げ、終には疲勞と激昂の爲めに氣絶して、やう／＼家に連れ歸られしことあり。同情の感は實に病の發作の如く夫人の心中に湧き來るなり。或は散歩或は乘車して出でゐる時、憊れ果て飢へたる馬のあるを見れば、穀物一籠竊かに買ひて家に蓄へ、夕暮方に小兒若くは僕婢を從へて野に出で、其馬に食を與ふるを此上なき樂とし、馬も亦其少女主を見知り、ブース夫人の過ぐるを見れば常に長き頸差のべて頻に嘶けりと。斯る事は少しく親切なる婦人の誰も皆しかある所、珍らしき事にはあらざるも、また以て夫人が幾百萬の憐れむ可き同胞を包み藏へる其心の如何に温かなるかを思ふ可きなり。

ブース夫人は少小の時より熱心なるメッヂスト派の基督教信徒にして、其の宗派に歸依せるの深き、他宗派の信徒の各々其會堂に集まるを見ては深く之を憐れみ

たりしと云ふ。自らは砂糖を斷ち、あらふる克己を爲し、友人より寄附を集めて傳道金を造るなど非常の熱心を以て其事に從へり。漸々長じて遂に學校に入る。夫人また固より天女にあらず、極めて人間らしき人間にて、長所あれば弱點もあり、をりをりは朋友に揶揄せられて烈しき怒りを起せることもありたり。學校を出でし時猶十五歳なりしが、從兄頻りに夫人を愛し、夫人また之を惡まず、終に從兄より結婚の申込を爲すに到りしが、其從兄は未信徒なりければ、夫人は熟考の末全くその關係を絶ち去れり。或は偏狹の譏もあらんかなれ共、斯くまで己が主義を守つて、愛情までも主義の爲めに犧牲にするか如きは、また珍らしき堅固の心にあらずや。

千八百四十四年モクフオルドの家族倫敦に來り住し、ブース夫人は此際自己の安心立命の點につき大に惑ふ所ありて、心の苦痛甚しく、午前二時頃までも室內を歩み廻り、聖書と聖歌を枕として醒時安心を得むと求むるなど、さまざまの信仰上の經驗を重ねたり。此れより三年間夫人はメソヂスト教徒として、靜かに働き居たりしに、其の明年に到り、メソヂスト改革派と稱する一團躰本教會より退けられ、而して夫人も亦渠輩に關係ありとて退會を命ぜらる。夫人其苦心を述べて曰く、此れ余か生涯第一の大困難の一なりき、余は年少く、且余はメソヂスト教派に養い育てられたれば、他の新教徒の己が教會を愛するに幾倍の愛を以て自己の教會を愛し居りしなりと。

メソヂスト本教會を退きてより、日曜學校の教師となり、ブース氏に邂逅して終に夫妻となり、もと物恥かし氣に退隱勝ちなる夫人が一朝感ずる所ありて慣然として公衆の前に立つて道を傳へ、終にブース氏と救世軍を興し、之を孵化し、之を覆育し、終に彼大組織となるに到らしめ、內外にブース夫人の名高く、或一派

よりは聖徒カザリンとまで推重せらるゝに到り、終に爲す可き事を終へ來る可き望を懷ひて凱旋する女將軍の如く勇ましく永眠せる、此の尤も變化多く且敎訓ある生涯は、余輩は僅かに其前半の徽影を露はすを以て足れりとせざる可からず。讀者若し家を治むるの婦人亦能く人を救ふを得可く、男子に劣らざる氣力才力を要するの事業も、亦能く婦人らしき婦人の手に成り得可き、適切の實例を求めんと欲せば、救世軍の母ブース夫人の全傳に就て之を求めよ。

約巴爾　下

蔽日生

若し夫れマシウ、アルノルドが彼を評したる所を以て當れりとせば、彼は實にコレリッヂに似たりし也。コレリッヂが著名の談話家として、多くの巡禮者を彼の寓居、ハイゲートのジルマン氏が家に吸引したりしを思はゞ、ジョーベルが同じく勝れたる談話家にして、同じく多くの巡禮者を聖オノレ街頭、天大にして地小なる處、高壯閑雅なる一客室に吸引したりしとの、如何に相似たる所甚しきやを思ふべし。彼等は又た共に倶に細墨の外に在りたる記者なりき。彼等は同じく其の時代の思想を究むるの餘、一科の書、一科の事を讀み且つ考ふるに熱心なりき、彼等は同じく古代の詩文若くは神學を研究し批評するに餘念なかりき、彼等は何れも宗敎及び政治に於ては保守主義を固執し、近代の自由主義は狹隘淺薄にして取るに足らずとなしたりき。されど其の最も相似たる所の甚だしきは兩者共に純粹の眞理を求め、之を求めて之を發見し、之を發見して之を認識せんと欲する熾なる感情と美はしき稟賦とを具へたりし一事也。是れ何人も等しく有し得べき所にはあらず。

ジョーベルはコレリッヂよりも快活にして聰明なり

き、されどコレッヂは富贍にして勢力ありき、其の著す所亦た種々にして多かりき、こはジョーベルの及ばざる所也。されど彼はコレッヂよりも智慧多かりしは疑ふべからざる事なるが如し。

茲に本篇を終らんとするに當り、彼が此の世に殘したる多くの至言を摘錄すべし、宗教上に關する彼の言に曰く、

此世に於て幸福なる人民は唯だ善人、聖人、使徒あるのみ、此の中最も幸福なるは則ち使徒也、其の性の聖められたる所の人也。

又た曰く、

敬虔は總べての宗教の眞髓也と雖ども宗教にはあらず。單に仁愛を有するに依つて國を有つものあらざるが如く、單に敬虔の念慮を持するのみにては宗教を持するの人にあらず。人若し國家に於ける一市人たり、其の法律を遵守し、其の官長に服從し、其の爲すべき道を盡すにあらずんば國を有するものにあらず。宗教は神學若くは接神學にあらず、總べて此等のものに勝る、宗教は教義也、律法也、衡軛也、解くべからざる約束也」と

彼が云ふ所斯の如く善し、彼は實に光の子たるに愧ぢず。其の舊新約兩書に關しては曰く、

舊約書は善惡の智識を教へ、福音書は(即ち新約)は豫定を示すかに見ゆ、其の書や實に潔白也。一は地の爲に作られ他は天の爲に作られしが如し」と

彼は最もプラトーを好めり、プラトーを好める者は多しと雖も、彼がプラトーを描きたるが如きはあらず。

プラトーは我儕に何物をも視さず、されど彼は輝けり、彼は光を我目に置き、我儕をして總べての物明に見ゆる樣ならしめたり。彼は我儕に何物をも教へす、されど彼は我儕に備へ、我儕を作り、我儕をして總べての事を知るに適せしむ。彼を讀むこと慣る

ゝに至れば、明快なる眞理の途には顯はるゝに至るまで、之を洞見し之を樂しむの能力を加さしむ。彼は山頂の空氣の如し、我機關を鋭うし、我をして美食に對する食慾を發せしむ」。と

又た曰く、

「プラトーは虛空の中に沒し去れり、人は唯だ其の翼の動くを見、又た其の羽搔きの音を聞くのみ。

而して其の結句に曰く、

人は彼の空氣を呼吸すべし、されど彼の如く行ふべからず」。と

其の他彼がニコルを許して、ボツユエットを論じて、マコレーを瞠若たらしめ、ラシーンを批して、「無學の童貞」となし、ボイローを目して、「勢力ある詩人也、されどとは唯だ半詩界に於て然るのみ」。となし、若くはヴオルテーアを難じ、ルーソーを斥けたるもの、亦た是れ堂々眞氣人に迫るものあり。

彼又た近古の思想を序して曰く、

古人は三者に依つて其の國を愛したり、即ち彼等の廟宇、墳墓、及び祖先此の三也。彼等を政府に結合するは太き二條の紐索也、「即ち習慣と往古と也。近代に至つては則ち新奇を望み愛するより茲に大なる變化を來せり。古人は我祖先と言ひ、今人は我子孫と云ふ、我儕は古人の如く我國を愛せず、即ち我先人の國と法とを愛せず、寧ろ子孫の法と國とを愛す、我儕の心魂を牽くに足るもの、唯だ將來に在つて過去にあらず」。と

又た「自由」に對する觀念に關し、近古の差を擧げて曰く、

多くの言語は其意義を變じたり。譬へば自由と云へる語は古に在つては統治權と同意義を表し、余は自由を得べしとの語は、古人の口に於ては、余は國を治め政を執るべしとの意義を顯し、今人の口に於ては、

余は獨立すべしとの義也。今人は自由を道義的に解し、古人は之を政治的に解したり」。と

ジョーバルは佛國の革命を經たる人、近代の自由の叫聲には彼は則ち斯く答へたり。

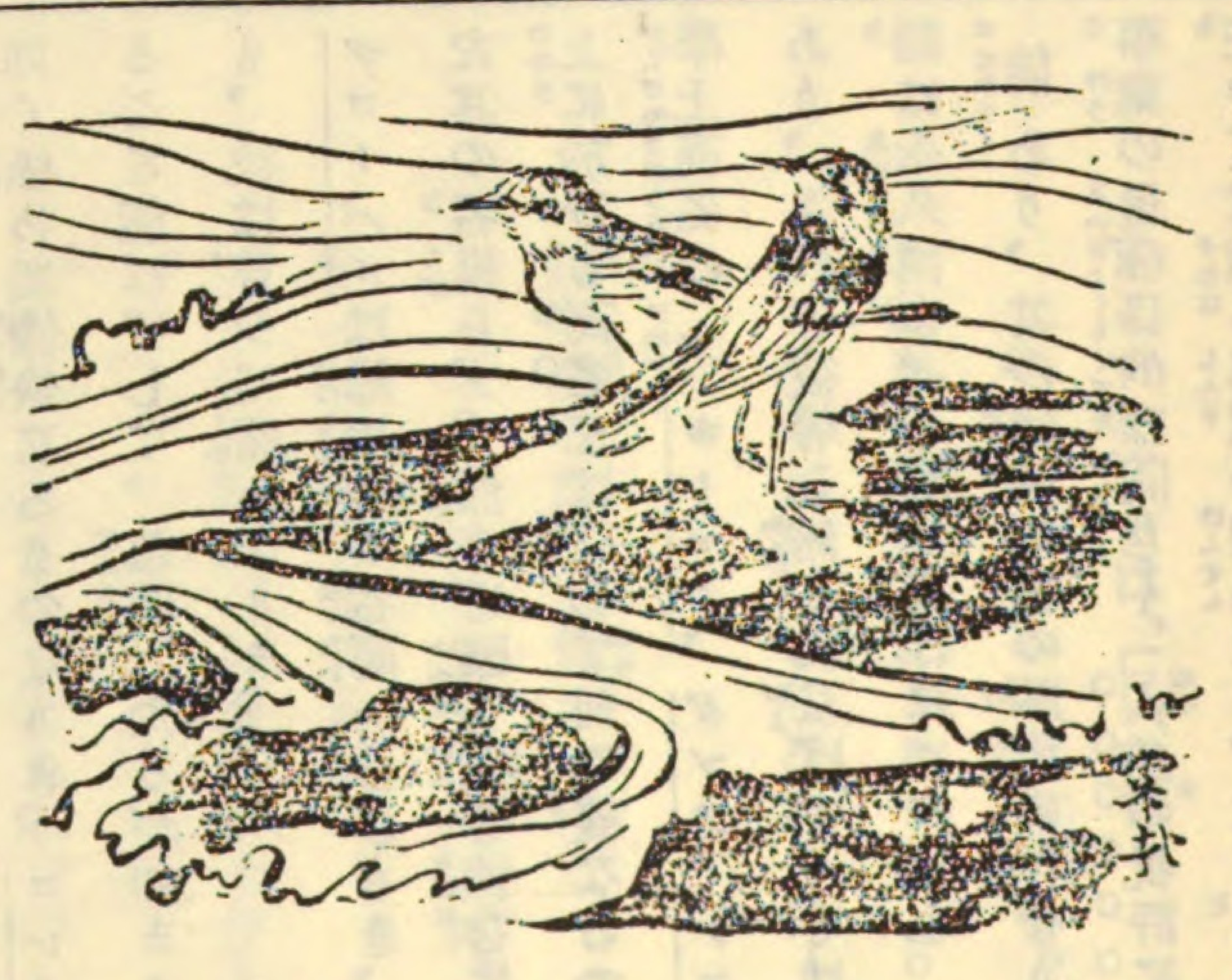
汝の叫聲をして自由なる人と云へる事の爲にせんよりも、寧ろ自由なる心靈と云へる事の爲に叫ぶ叫聲ならしめよ。道義的の自由は一の活きたる重大の自由也、此の自由は決して解くべからざるもの、他の自由は此の自由に比して稍々劣れる所のもの也。服從は獨立よりも更に善也。一は順序及び整頓を含み、他は自足及び孤立を含むに過ぎず。一は調和の意あり、他は單調の義を有す、一は完璧也、他は部分に過ぎざるのみ」。と

彼は更に叫んで曰く、

自由よ、自由よ、我儕をして萬事に。正しからしめよ、さらば眞の自由を得べし」。と

我儕をして正しからしめよ、さらば眞の自由を得べし。

賢者此の語の反響を遮らず。人の建てたる政府は絶えず不完全也、故に自由を得んと欲せば先づ正義を得ざるべからず。



ジョーバルを以て人を驚かす力ある英才と爲すを得べからずとするも、彼は疑もなく快活にして人を啓廸する茂才と爲すを得べき也。

彼は假令「我儕の生命は織られたる風也……無學なる想像の人は

翼を有すれども足を有せず」と云へるか如き綺語を吐くに巧なりしとは雖、彼は斯る絢爛たる短句の作家としてのみ目すべき者にあらず、何となれば佛語は斯の如き綺語を綴るに於て便なるが故に、彼の意を用ることも、亦た左のみに多からざりしならんと思はるれば也。而して彼が「人生の眞髓は人の心靈の想考し自覺するにあり。……幸福は人の心靈其の感、善なるにあり……若し眞理にして天眞爛熳のものたらば、そは人の中に長く浸されざりし所の證也、……人は其の隣人を愛するとあらずんば遂に彼れに正しき能はず。」と稱したるもの、是れ寧ろジョーベル至善の本性、之を謂はしめたるにあらざるなからんや。彼は光を愛せり。故に彼は自己の暗黒を以て事を掩はざりき。彼の目は唯一なりき、故に彼の全躰は光充ちたり。彼は光充ちたりしが故に、彼は幸充ちたりき。彼の不健康なりしにも拘はらず、彼の苦痛多かりしにも拘はらず、彼は最も幸福の人として活きたり、彼の生涯は彼の思想の如く極めて愉快なるものなりき。コレリッヂは平穏なること能はずして、煩悶したるが如きことありしと雖も、彼は曾つて然らざりき。

ジョーベルは畢生其の名高からざりき、而して死後亦た其の名揚らず。然りと雖も彼を憐むに先ちて、文學上に於ける高名とは果して何の義なるやを考へよ。文學上高名の才ホーマー、ダンテ、シェークスピーアあり、されど彼等を語るに及ばず、そは彼等を讃する語は永久消ゆべしとも思はれざれば也。文學上高名の能あり、其の嘆美は其の時代に存せり。されど其の事業の最極目的は同じく「人生の批評にあり」。前者に在つては則ち眞理の源泉たり、故に其の人生の批評は永久に人類の光輝にして快樂也、ホーマー、シェークスピーアの如し。此等は總べて文明の戰爭に關する神聖の人物也。後者は則ち新時代の小戰士にして、其の

先驅たり、故に彼等の如く不朽の功を爲さず、又た永久の遺蹟を擧げず。彼等は一時前人を壓し、之を掩ふと雖も、竟には來る所の諸衆諸民に忘却せらる、此等は則ち多くのジョーバル也。彼等は決してシエークスピーアの如く、諸衆諸民の心を攪ること能はずと雖、尚ほ且つ安全なるを得べく、諸衆諸民は決して彼等を覆へさず。然り一の時代より他の時代に手を通して唯だ安全に送らるゝのみ、是即ちジョーバルの運命也。嗟呼彼は實に斯の如くにして當世期の初より今日に至るまで、空しく故紙堆裏に埋れて眠れる也、彼を思ふ者豈に多少の感なしとせんや。

文藝

鷄の雛をつれたる方に

湖處子

あなうらやまし、鷄の
出て遊べるさま見れば。
雛てふ雛をうちつれて、
　ひとりも傍をはなさじな。

すこやかなるは、己が背へ
　のるにおりるにうち任せ。
よわきを胸にあたゝめつ、
　にくしかはゆしなかりけり。

餌を得るたびに親どりの
　つゝきてちらす樣見れば。
なべての雛にふりわけて、
　うすしあつしはなかりけり。

世にいくたりの子はうめど、
　憎みもやらずすてもせず。

なべてのひなを推なべて
養ふこゝろあなあはれ。

嬰兒（つゞき）

一一生

小箪笥の抽斗に數百枚の寫眞あり、彼に三ツのチンチを持つてお出でと命ずれば、彼の抽斗の中より笑ふ子と泣く子と怒る子とを共に撮影したるものを持ち來るなり、又た大きな伯父さんを持つてお出でと命ずれば、彼は某伯の半身を撮影したるものを持ち來るなり、彼に寫眞を飾つておくれと命ずれば、彼は戸棚の敷居や柱の脇へ二三枚の寫眞を列ぶるとあるなり、

先頃雪の日に、霏々と降りつゝある雪を指して、雪チラ〳〵と云ふことを敎へたるゆへ、彼に向つて雪チラ〳〵はと問へば、必ず家外を眺むるなり、

彼が眼より醒めたる時は、泣くと多けれども、機嫌よく起きたる時は、オヤと呼びて四方をキヨロ〳〵見廻はすなり、其樣子恰も、己が今まで何處に在りしか、何事を爲し居りしかを怪むものゝ如くにて、いと可笑しく見ゆるなり、かゝる事は晝寢より醒めたる時に多し、

此頃彼は五六歩ぐらゐ歩み初めたり、守り女がウーサギ〳〵何を見て跳ねる十五夜お月樣みて跳ねると唱へて、ヒヨイ〳〵〳〵と拍子を取るときは、彼れ必ずこれを相圖としてヒヨコリ〳〵と五六歩を運びて、ペタンと尻餅を搗くなり、

ある日、金時の面、天狗の面、猩々の面など買ひ來りて見せたるに、初のうちは彼れ恐ろしがりし樣見へたるが、追々馴れて恐れざる樣になれり、此等の面を被ぶりて躰操して見せたるより、彼は面を被ぶる毎に兩手を動かして躰操を眞似するやうになりたり、

毎朝豆腐屋がトーフイと呼び來る毎に、彼はアーイと

眞似するなり、彼の耳にアーイと聽ゆるやうなりたるは此頃の事にて、以前は豆腐屋の聲を聽く毎にブーワと呼び居りしなり、又た彼は守り女に背負はれて街頭に在る間に、肥へ取り屋がオワイ〳〵と呼び歩くを覩來りて、頻りにワーイ〳〵と呼ぶなり、肥へ取り桶に形の似たる物を見れば、直にワーイ〳〵と呼ぶなり、」彼が廻らぬ舌にて頻りにヂロコ〳〵と言ふは、恰も次郎公〳〵と呼ぶが如し、近所に次郎と呼べる餓鬼大將あり、ナンダ己れの名を呼ばぎやつてと咳やきたりとぞ、彼が讀書の聲を眞似するにはヂヨコン〳〵と言ふなり、彼は新聞紙を持ちたるとき端書を持ちたるときに、必ずヂヨコン〳〵と言ふなり、

彼は祖母をバヽと呼び、父をダイチヤンと呼ぶ、乳を呑まんと思ふ時はパイ〳〵と呼びて母の傍へ行くなり、東京の母親は乳をオツパイと云ひて呑せるゆゑなり、

一日旅行

行々生

春は將に踏青の季節を載せて來らんとせり。彼女神（二字）が和暄なる日に騎りつゝ綽約として年の端を出るや、淡紅に霞める裙は山より野邊に曳き渡りて、千條の遊絲麗かに萬種の色をぞ織出すめる。

拾遺集の詩人が歌へる如く、世の中に樂しきものは思ふどち花見て暮す心なり。夫妻よ手を携て去れ、知人よ相率て行け、白々紅々相間りて開くの底、三々五々踏青し來らんに、其快事如何にぞや。

去れども等しく野邊の遊びをなすにも、獨り天然を友とするのみならず、幷せて人事の轉變をもしのび、地理を察し、風物を考へ、以て興亡の由る所を憶ひたらんには、其感興愈深きを加ふべし。

故に墨田江東の梅月の瀨の梅を看るのみならず、上

野向島の櫻芳野嵐山の櫻を看るのみならず、ゐをによし奈良の都の跡を訪らひ、星月夜鎌倉山の昔を尋ねなどするは、千百歳ふりにし、歴史の內地を旅するに同じく、天然の風色も一入感慨を添ふるぞかし。

枯枝を吹きすさみにしこがらしは已に猛威を收めぬ。砂を鑽る春草は寸々萌出で、勃々たる人の遊情を促して止まざるなり。あはれ三日二日の暇を得て、歴史の內地を旅せんと思ふものある乎、余はまづ中世の首都として武人政府の所在として久しく東方の雄鎭と誇りし鎌倉の昔を見んと思ふなり。誰か能く余と其感を同ふして來る者ぞ、而して來て余が一行に加はる者ぞ。



余が住所は我邦現今の首都たる東京の某街に在り。余は今一人の感を同ふする友と打連れ立ちてまづ新橋のステーションにと急ぐなり、余は實に此午前第二發の滊車に乘込むべく思ふ。

＊　＊　＊　＊

新橋を西に越へて折一折、鐵道馬車の走る傍、腕車の數多く憩へる前、一塲の特に開きたる道をひかへて聳

峙せる石屋、

彼は新橋ステーシヨンなり。彼が廣やかなる口は正に非常なる速力を以て人を吸集めつゝあるなり。彼が奥まりたる處にては早發車を報ぜんとて鈴の聲響き渡りぬ。

滊車窓底相對して長椅子に憑る兩個の年若き客あり。甲は言ふ、『何等のせはしき事ぞ』。乙は言ふ、『然り、滊車は殆んど余輩を殘して次回の列車の爲に其置土産となさんと欲しき、然れども余輩の健なる脚は遂に余輩をして此失望すべき置土産とならざらしめり』と。此の乙と甲とは他にあらず、則ち余及び余が友なり。」既にして鐵笛はステーシヨンに向て『さよなら』と叫びぬ。余輩は已に列車に運ばれて腰かけしまゝ動き始めぬ。ア、急げる滊車が息つくことのせはしさよ。

品川浦の朝景色、神奈川横濱の眺め、戸塚大船の路。磯傳ひに走りし滊車は轉じて山の間に入り、山の間に入りたる滊車は忽ちに墜道を穿て去りぬ。

偶ゝ滊車が一荒村に停まれる時、窓下を走れる驛夫の『大船』『大船』と呼べるありき。これより南鎌倉の方面に行かんとするものは其乗れる列車を換ふるなり、然らざれば彼等は更に西に向て用捨なく伴ひ去らるゝなり。然れども余輩は竟に之を換ふることを肯んぜざりき。そは鎌倉を見んと欲するものは江の島を見ざるべからず、江の島を見んと欲するものは亦鎌倉を見ざるべからずして、若し江の島に行きて鎌倉を見ざらん乎、若くは鎌倉に行きて江の島を見ざらん乎、猶饗應の坐に就きながら飯のみを食ひて其菜を遺せるにひとしければなり。故に余輩はまづ江の島を見て而して後に鎌倉に遊ばんと決心なしぬ。

それより次のステーシヨンを藤澤と云ふ、江の島に行かんと思ふものゝ滊車を下るべき所なり。藤澤より江の島へは其間一里十町、腕車を驅て田間丘下を南に去

るなり。伊豆半島と相摸の岬角と遙にしまりなき大灣を形つくれるもの、即ち所謂相摸灘にして、其海岸鎌倉郡片瀬の海中に聳立ち、一條の砂路もて本土に通へるもの、江の島是也。

腕車海岸の小丘下に止まる、丘は軟かき沙なり。之を越ゆるに靴を沒せんと欲す。丘上若くは丘下の波打際には島の旅亭料理屋より客を引かんが爲に出し置ける人あり、彼等は客の憩ふ處を問ひ、豫め指す所にしてなからん乎願くば我が亭に憩ひたまへ我か亭は最も懇篤に客を待つべしと乞ふ。余等は導かるゝまゝに岩本樓と云へるに入りぬ。

樓は島の本土に向へる方の右方に在り。海に臨める離亭に憩ふに、遙かに海上を見渡せば、細波輕舟春の海のうねり長閑けく、霞罩めにし彼方の岸は名にし大磯の邊にてもやありなん。中にも雲井に高く白妙の富士の根を見るなどは、得も言はれぬ眺めぞすなる。

旅亭は石の華表より左に惠比壽屋金龜樓北村屋あり。右に岩本樓及び讃岐樓江戸屋堺屋あり。島の中は年古りにし樹茂り、瓦の光壁の色海に映りて風姿繪の如くなり。余輩は案内者に導かれて邊津中津興津の三社に至り、邊津宮の後に、僧文覺が宋より傳へしとなん云へる古き碑をしのび、興津宮より西に下りて崖に沿ひつゝ左に折れ行きて龍窟を見ぬ。

（挿　圖）



龍窟は南まんたる滄海に向ひにし岩の罅隙にして、中に入れば

穴二つとなる。棧道ありて通ふべし、燭を手にして中に入るなり、之を窟の辨天とす。入口には波打寄せて岩洞に呑吐し、其聲勇ましくも亦心地よし。

洞窟を出でゝ、岩角をめぐりつゝ、歸り來れば幾多の漁夫は小貝拾せては與ぜよと言ふ、然らば取りて見すべしと取らするに、彼等は直ちに衣を脱し、水中にくゞり入りて瞬くひまに鮑など取り上げ來ぬ。

鮑は此島の名産なり。製造品には貝細工兩三店ありて人を呼び、東京へのお土産に花の簪なりと一つ召しませやと勸む。

兒が淵は島の南なる端にあるなり。此處は鶴が岡相承院の侍童白菊が身を投げにし處ぞと傳へき。其扇の面に書きとゞめしといへる歌二首、

　白菊をしのぶの里の人問はゞ
　　おもひ入江の島と答へよ。
　憂きことを思ひ入江の島かげに
　　すつる命は涙の下草。

岩本樓に歸りて晝食す、日已に亭午を過ぎぬ。斯くて我輩は急げる旅にしあれば此處に長居せんも詮あらじと出立つ。

これより七里が濱邊に打寄する波を車の上にながめやりつゝ鎌倉へと向ひき、其間二里十二町。途上に長者塚片瀨川 唐 が原小動稻村が崎なんどいへる名所あり。

片瀨の東腰越村に至れる途に寂光山と呼ぶ寺あり、龍口寺と云ふ。世に龍の口御難と稱して、文永中僧日蓮が危難に逢ひし所となす。本堂の西に日蓮の土牢あり、內陣厨子の內に敷革石あり、日蓮がこゝに坐して斬られんとせし所なりとぞ傳ふめる。今其跡をとむらひて其寺に至れるものは、坐ろに彼れ日蓮が亦宗教界の一豪傑なりし事を想ひ見るべし。

腰越村は鎌倉の品川驛なり、往時源豫州が宇治屋島の

征戰より凱旋して忽ちに止めらし其處。春風春草多少の感慨なきを得んや。七里が濱は風光好し。輕波砂を洗ひ、水脚銀猫を弄し、さや〳〵と聲澄渡れる其面白さ。かるが中に車は鎌倉近く急ぞぎ來ぬ。（つゞく）



新刊書

『わしんさん傳』　警醒社發賣

二人の少年あり、立身の樹下に立ちて成功の菓實を取るに、一人は飛び上り伸び上れども手屆かすして空しく樹下にたゞれまはり居るなり、一人は心かしこくて直に書物を讀れ之を踏臺さして彼は難なく色よき成功の菓實をもき取れり、而して其踏臺させし書物を見ればこれなん『少年叢書』さぞ題しける、

漠北生の『少年叢書』は其表紙に斯くの如く畫きしなり、『わしんさん傳』は則ち此の叢書の第一さす、

世に最も面白くして最もよく人を與すものは人の傳記に如くはなかるべし、而してひさしく人の傳記ながらも、かの奇怪異常にして一種の片輪者たる僞豪傑の傳記よりは、平正公直にして職分を重んじ眞理を愛し眞成に稱して英雄さなすべきものゝ傳記こそ、實に人の教ともなり、又人に英雄たるへき工夫をも知らしめ得るなれ、吾等は今第一にワシントンを擇びたる『少年叢書』を見て、其よく天下の少年が志を立つるの踏臺さなり、彼等をしてよく世に美はしき成功の菓實を採らしむへきを疑はす、

ワシントンは最も理會し易き英雄なり、平常の工夫を以て彼は大米國の父さなれるなり、而して『少年叢書』は之を最も平明に解釋し、

我等がワシントンの傳を讀みて感ずる所は英雄なるもの、必ず高論異行吾人の學び易からさるものにあらずして却て吾人が最も怠れる所に注意して來れるより成功したるの一事にあり。天英雄を下して人に教ゆ豈學び易からざる者を下さんや、我等はワシントンの如き平易正直習ふべく行ふべく談すべく學ぶべき英雄を見るごとに皇天人を道くの深きを謝せざらんさ欲するも得ざる也。

さいへるを見るに、漠北生さは何人ぞや、『わしんさん傳』は實に六十六頁の小冊子に過ぎずさ雖、其行文は極めて平易を主さすさ雖、評に之を見れば其見解筆力共に凡ならざる所あるを見るなり、顧ふに彼は世を憂ふる先進者の其名を匿くせるものにあらざるなきを得んや、

吾等は斯る面白くして且つ解し易き冊子の更に續出して、世上の好少年が成功の菓實を折るに好踏臺さならんことを、切に切に之を望む、

『童子』　　一二三館發行

家庭の小話さして可愛ゆき小傍聽者に眉根を動かし口元に愛嬌の池を作りて喜ばしむるもの、櫻井近子女史の『童子』も其一ならん、女史曰く西洋には童子のためになる面白い話を容易く書ひた本が澤山ありますけれども日本には、まだ小學校の生徒のよめるやうな話の本はすけなふ御ざいますから何か童子のはなしを書ひてくれろさ或人にたのまれましたが私は元來話下手ですが童子衆は大好きですからリードルや新聞雜誌でよんでおぼへてゐた話を俗語に直して此小冊子にいたしました素より童子のためですから、わかりやすいやうに書きましたゆへ成人がよんでは面白くはありますまいが多少でも童子方のおなぐさみに成りまたは親母さんや祖母さんの家庭のお話の種になれば滿足で御ざいます

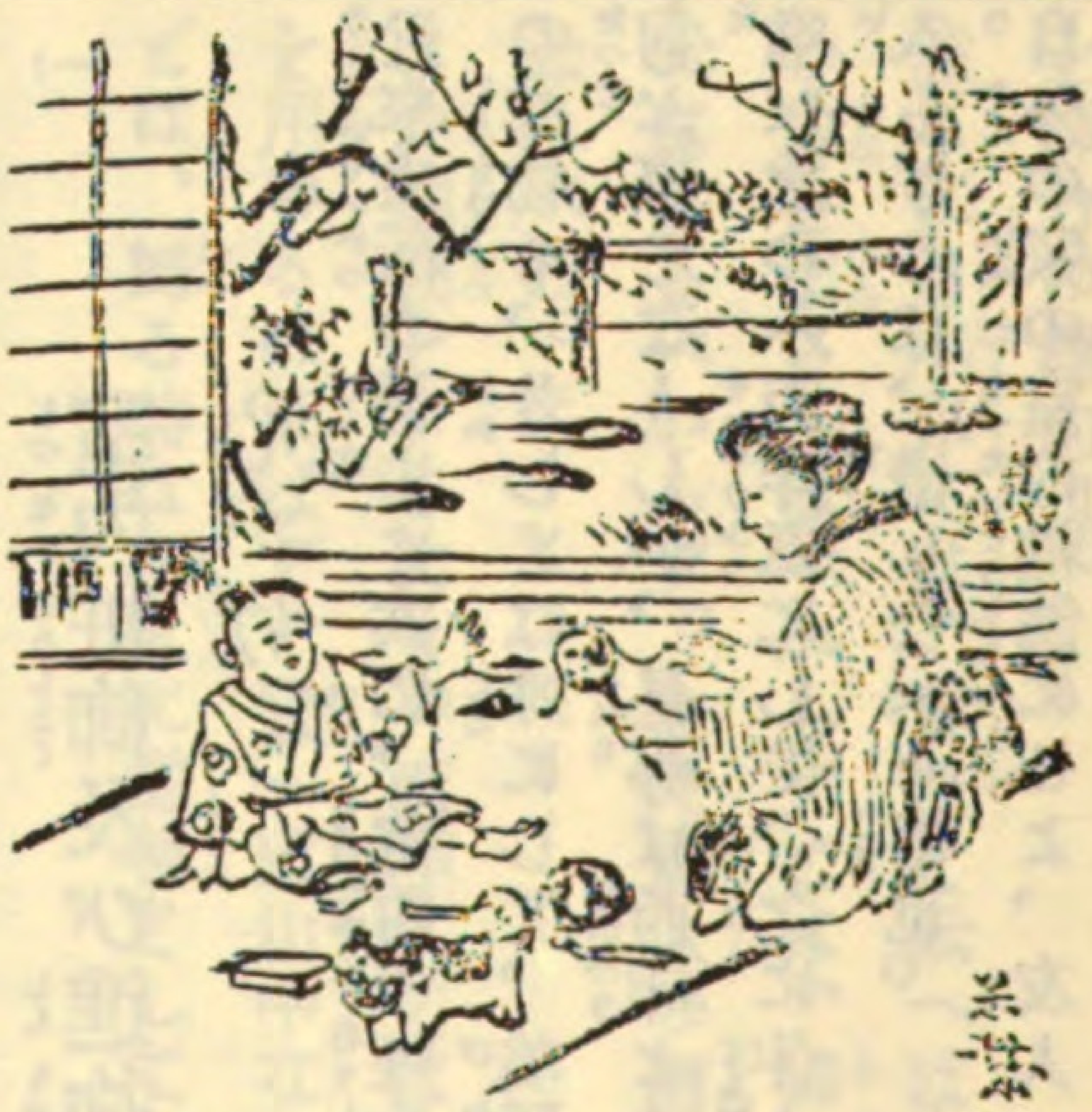
是れ『童子』の作られたる所以にして、行文の可愛ゆきと亦此くの如し、

家政

育兒小話

小兒を遊戯せしむるの注意

小兒を遊戯せしむるに、極めて注意すべきことあり。ソハ極めて其獨立自治の心を發達せしむると、共に、規律正しくあらしむることなり。



此頃我家に新たに傭ふたる少女あり、少女の初めて來るや、小兒は左程には懷親かざりしが、二時間三時間一日二日と經過するや、小兒は其傍を離るゝを厭ふに至れり。少女は如何にして此かる親しみを得たるかと云ふに、其心ざまやさしく、やさしき中にも意思あれば、敢へて通常の下婢の如く、媚ぶるが如くして、小兒の機嫌を取ることもせざれば、また愚なる母の如く、小兒に干渉して其樂を奪はず、小兒の遊ぶが如く、其行くがまゝにし、さて其爲さゞるべからざること、即ち朝起きて直ちに腰湯をつこうこと、

顔を洗ふこと、食前に頭を下ること、危險なるものには觸れざること、禁じたることは爲さゞることとは、一歩も假さずして、必らず爲さしむること、法律の如く規則正しきか故なりき。

此女は學ばずと雖も、天性、フローベル主義の幼童教育法を知りたるものと云ふべし。ゆめ〳〵小兒を育養するに、餘り、干渉するは悪し、害なき事、少しぐらゐの亂暴は、爲すに任すべし。是れ大人となりたる時は、自治獨立の志を得るの種となるべし。去りとて爲すべからざる事は、一歩もおろそかにすべからず。是れ大人となりたる後、規律を重んし勞力を尙ぶの基也。世の母多く干渉に過ぎずんば、あまやかしにすぐるが如し。是れ其母に温厚の心と共に、嚴肅の心の足らざるの印にや。

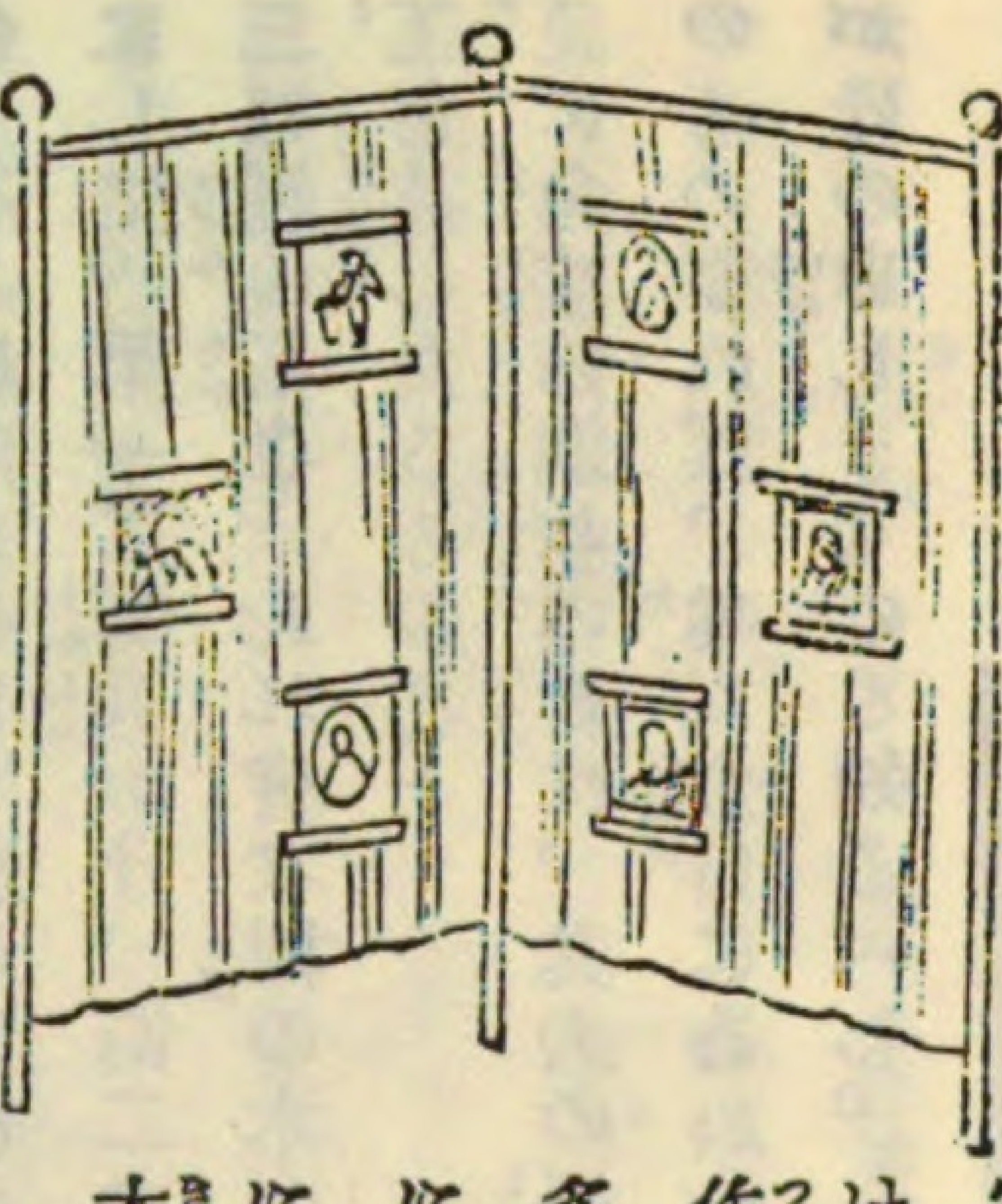
ちなみに記るす、此頃東京府下にて、多くの幼稚園を設くるものあれども、其内幼稚園の眞との趣意を知るものとては少なく、學校の如く、むやみに幼童に唱歌を敎へ、物事を敎へ、敎へて覺へずんば、不可とするもの多しと云ふ。驚き入つたることなり。幼稚園はまことに幼稚園にして、小兒を心よく遊ばしめ、遊びの中に其品質を鍛ふ所にして、學校とは全く性質を異にするものなるに、何にも分らざる人が、かゝる事を企つるはまことに危險の事と云ふべし。幼稚園に子女を托する人々は、よく〳〵幼稚園の師母の人となりに注意すべし。去らずば、あたら子女の腦力を害するに至らん。

室内粧飾及び進物につきての心がけ

近來生活の進歩と共に、室内の粧飾、または友人などの進物も、昔しとは殊にして、美麗にして意匠あるを尙ぶ事となりしが、是等は西洋より來る風なれども、唯だ之のみ西洋風にして、之に伴ふ肝要なる西洋風の入らざるは、惜しむべき事也。

自分の家の室内粧飾にせよ、友人への進物にせよ、尙ぶ所は金目にあらずして、一は其意匠の面白きと、一

は其人の趣味を示めすが故也。然るに我國にては、此事に頓着なく、唯だ價の高き事のみをよしと心得るは、大なるひがことゝ云ふべし。譬へば客室にある畫狀も、世間に有名なる畫家の畫きしを集めたるもよけれども、之と共に主人夫妻散歩の時、其邊の風景を摸寫したるを挿むもまた面白し。是れ西洋婦人の間々する事にして、我國には絕へてなき事なり。

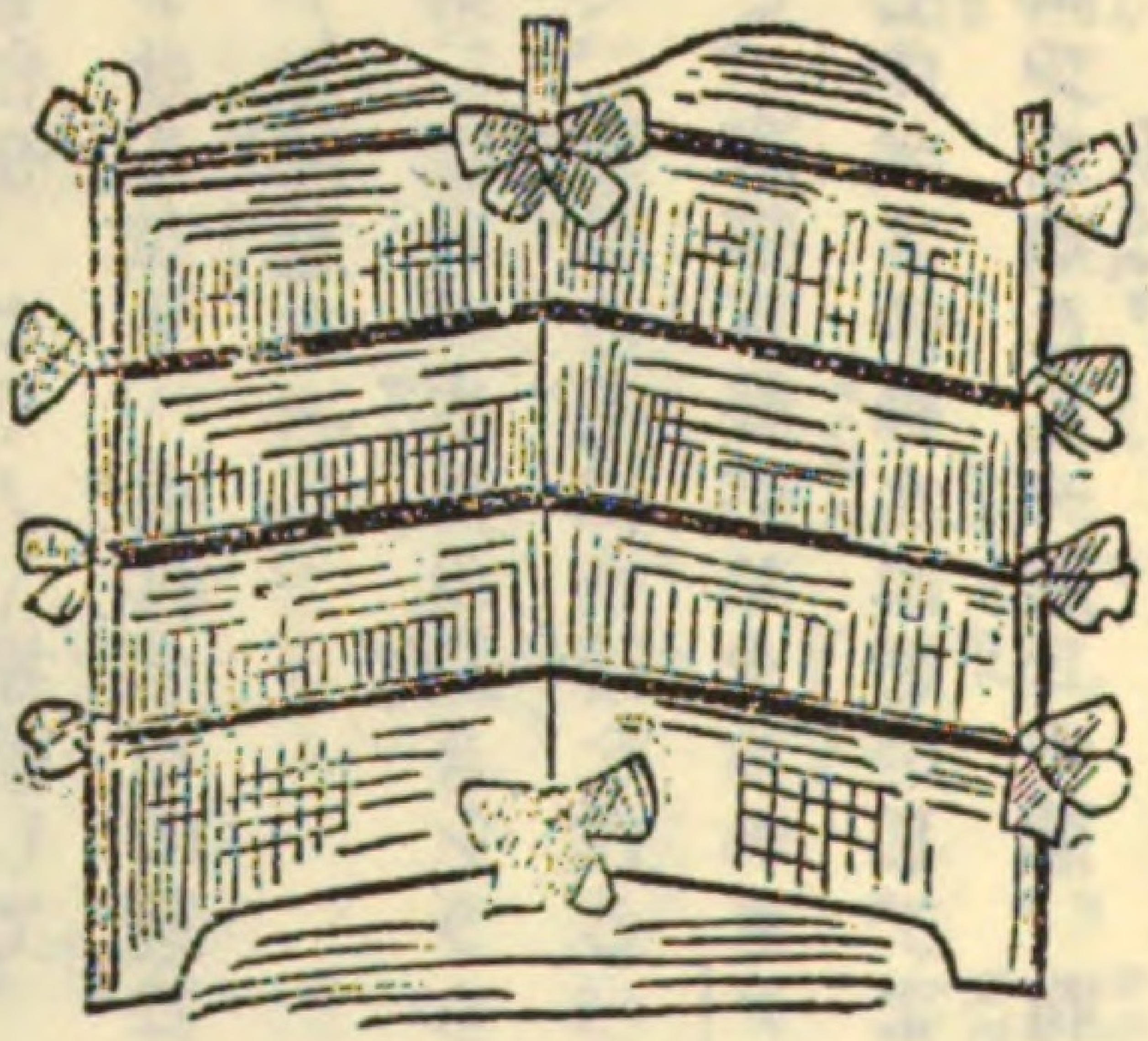


また西洋婦人は、指物屋をして、通例の日本の屏風の如き額ぶちをつくらしめて、其間に手製にて、絹なり、木綿なり、更紗なり、切れをはりて、其間には所々に寫眞を挿むべき所をあけて、一種の新屏風を作るなど、中々に趣向多し、上圖は、此頃米國に流行する新屏風の一にして、ふちは通常の木にて作り、中は空にして骨なく、妻君の手にて、好みの切れをはり、其間に所々友人の寫眞などを挿むの趣向也。

然るに日本にては、屏風と云へば大げさにして、大枚の金を出さゞるべからずとは、婦人の領分甚だ狹しと云はざるべからず。また婦人の趣向なきを示すものと云ふべし。

また進物をするにも、西洋にては、必らず高價なる品を用ゆるに及ばず、譬へば山中などに避暑したる折などは、歸る時は友人に進物として、樺の木の皮にて、

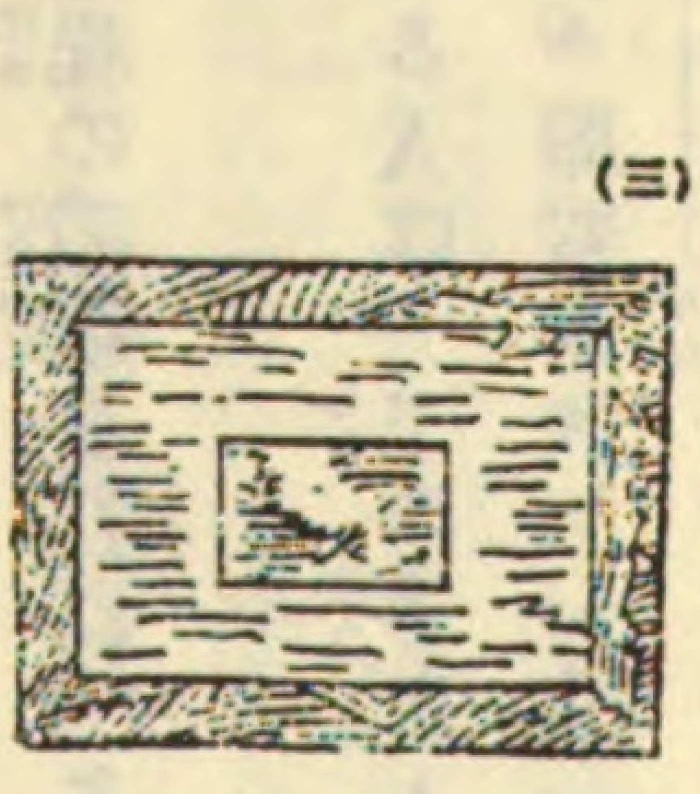
(一)



(二)



(三)



色々なる趣向をなして遺ることあり、右の圖は其一例にして。第一は寫眞かけ、第二は書籍の挿み表紙、第三は鏡の臺也。此れ皆な樺の木の皮に、種々なる手細工を施したるもの也。

兎に角粧飾進物の要は、其人の趣向と心ばへを示す所のものなれば、唯だ金目にあかしてよしとするは、心がけの卑しきものと知るべし。

家庭衞生

毛生ぐすり

病後または産後には、婦人の頭髮のぬけることと少からず。是は固より健康には別段の害なしと雖も、風采をつくろはんとする人には、一方ならぬ困難なり。今ま少しく此毛髮のぬけるを止むるの方を示さん。

第一毛のぬけるを止めんには、トルペンタイン油一オンス、ニーツフート油（子牛の脚の油）一オンスとを合せ、之に班猫の溶解せるもの三十滴（注意すべし班猫は毒藥にして、一滴にても人を殺すに足るの力あり）を合せ、よく〳〵振蕩して、一週間三回ほど毛の根につけるなり。去れどこの藥は餘程の激藥なれば、よく〳〵注意すべし。

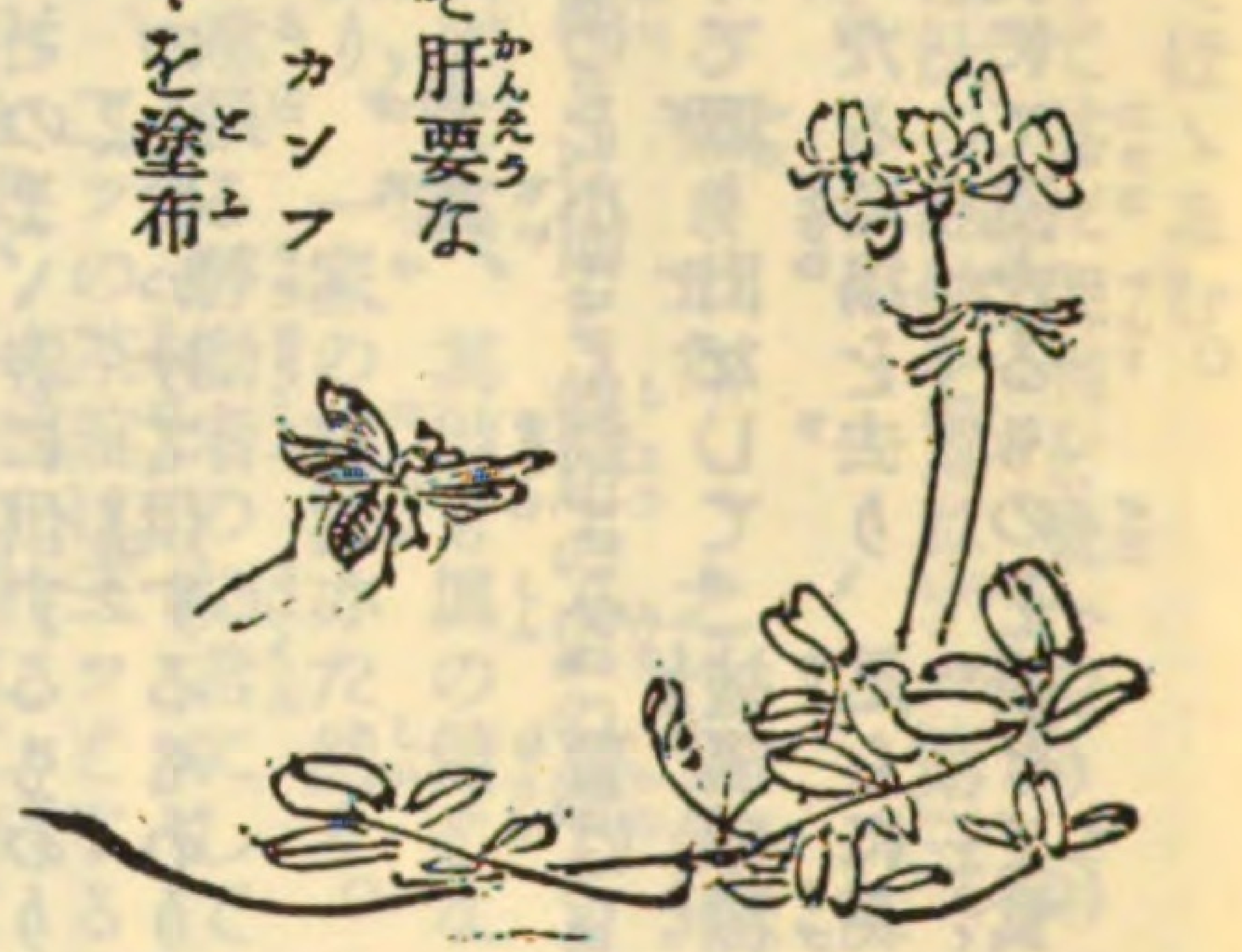
第二に毛の生長の遲きをうらむる人は、下の方によりて、手易く毛はへ藥を作るべし。即ちリスリン油一滴と、班猫丁幾半ドラリマとアンモニヤ水一オンスを、七オンスの香水にとかし、よく〳〵振蕩して毛髮の根につくること一週日の間、毎日一度之を試むべし。此くて此藥をつけたる上は、ブラッシにてよく〳〵毛髮を摩擦し、一週間の後は、最早や此藥を用ひずして、唯だブラッシにて摩擦すべし、効能著しく見へん。

右は米國婦人新聞の報ずる所にして、記者の經驗したる事にあらざれば、信僞は保證せず。

虫にさゝれし時の用心

春も最早や三月となりたれば、虫類も追々出で來たる頃なれば、之より小兒が虫にさゝれし時の用意を爲しおくこと肝要なれ。

蚊にせよ、蜂にせよ、其の他の毒虫にせよ、虫にさゝれて痛きは、其針が人の皮膚に迫まるが故也。故に此針を抜き取ることこそ肝要なれ。而して其局部には、カンフホル、若くはアンモニヤを塗布すべし。



料理法

乳パン（病人の好食料）

すべて病人には堅き食物、或は不消化なる飲料を禁ずると共に、滋養に富みて、健康に益ある飲食物を撰むの要あるは、誰も諒知せる處なるが、乳パンは最も病人に適したる食物なり。その製法は先づ適宜の牛乳を取り、鍋に入れて沸騰せしめ、牛乳一合に、パンを一斤の八分一計りの割合にて、沸騰せし牛乳の中に入れ、砂糖を以て味を付け、パンの能く溶解して塊なきに至りし時、火より下ろし、好みによりて雞卵を入れ、暫らく鍋の蓋をなし、卵の半ば熟せし頃、皿に入れて供すべし。

密柑菓子

十二個計りの密柑を刻み、更らにそれと等分の砂糖を湯にて煮解きたるもの〻中に橙の皮、若しくはレモンを投じて、風味を付けたるものを取り、その中に先の密柑を投じ、をよそ二十分計り火上にをき、密柑の能く溶解して、形のなくなりたるとき、布にて漉し、茶椀又は深き皿に入れをき、雞卵の白味を沫だゝせて、花の如くその上に散らして客に供す。

パン及び牛肉のオムレツ

一二個の雞卵の黄味、白味を別々に解きて、一つに合し、鹽胡椒にて加減し、その中に牛肉の小片と、パンの刻みたるものとを入れ、焼き鍋に油をひきたるものゝ中に投じ、十分計り火上にをき、少しく固りたるとき、皿にうつして食用に供す。

米人の米食法

日本にては、米は常食なれども、外國にては、菓子或は野菜の代りに用ゆ。先づ米國にて米を菓子に用ゆる方法を聞くに、米を洗ひて糠を除き、通常飯の加減より、少しく水を多くし、少量の塩砂糖を入れて廿分計り煮、未だ米の固き中に水をすてゝ水のかわりに更らに牛乳或はクリームを入れ、米の能く煮ゆる迄火上にをき、さて火より下して、冷めたくなりたるとき、適宜の大さに刻みて、燒き鍋に油をひき、その狐色になりたるとき、皿に盛り、そのまゝ客に供するもあり、或は卵を半熟にして、その上にかけて供するもありと云ふ。

ジヤガ薯の葛煮

ジヤガ薯の皮を剝たるものを小さく刻ざみ、暫ばらく水の中に入れをき、やがて取り出だして、塩湯の沸騰せる中に投じ、能く煮へたる時湯を去り、更らに葛を塩と砂糖にて加減し、乳にて煮たるものを掛けて食膳に供す。

『買ひた誌』

一錢一厘生

『買ひた誌』とは、余が近頃思付の帳簿なり。余は富有ならず、買ひたく思ひし品物も、直に買ふとを得ず、かゝる所より思付きたるなり。

新聞紙の廣告を見、朋友の談話を聞て、是非に購求す可しと決心せし書籍の如き、あたかも金錢の蓄なく、直に買ふ能はざるより、其の内には忘れて了ひ、他日其書籍の必要を感じて大に殘念に思ふ事あり、其のくせ無汰の物は手當次第に買ふて隨分顧ざる也。

こゝに於て余は一冊の帳簿を造りたり。而して買ひたしと思ひ付きし品物わりし節には直ちに其品物の名、代價、若しくは賣捌處、思付きの月日迄でも書とめ置くなり。

斯して種々雜多の品物は書とめられ、代價は積りて幾圓幾十圓となる也。顧て自ら其金高の夥しきに驚く。

日常欠で濟まぬ費用の外に金錢餘る、則ちさきの帳簿を繙へし、どれが最急、最要なる可きかを撰び、その撰に當りし品物を買ふ、品物愈々わが手中の者となれ

ば、帳簿より之を消してほゝゑむ。

余は今日迄で實行し來りて甚だ便利を覺へたり、第一、貯蓄心を増す、第二、無駄の品物を買はず、第三、最急最要の品物を撰ぶを得。

願ふに金錢は、其の儲くる難きが如く、之れを使用する亦た難し。使用するの難きは則ち使用の道の難き也。使用の方法其の宜しき得ずんは、其儲も眞の儲とならざるべし。一人の經濟然り、一家の經濟亦た然り。かの宵越の金を持たぬと意張る勞働者の細君にして、巧に此の帳簿を利用せば、二ッの茶碗は三ッとなる可く、農家の細君之れを利用せば、一挺の鎌は二挺となる可く、學生之れを利用せば、架上の書籍は次第に其の數を増さん、平民主義の同胞姉妹以て如何となす。

社交一斑

西洋禮式一斑

洋蘇子

現今我國民の衣食住の三大生活上及社交上の有様は如何、曾て井上伯が外交の任に當りし頃は、洋風全國を風靡し、鹿鳴館裡洋音朗々舞踏翩翩たる時代には、精養軒のツップに價高く、八百松の主人を泣しめし反響は機敏なる白木商店をして洋服店を開業せしめたりき。爾來社交上の嗜好は一變して復古的國粹的に傾き、羽織袴に八百善松源の時代とはなりたりけり、然れども竹の園生の大會盛宴より一般國民の冠婚喪祭に至るまで、亟に洋式を用うる所以のものは、職として洋風の簡略にして作法宜しきに歸せずんばあらず。

然り而して衣服の點より現今行はるゝ禮式用を言へば、「ユニフオルム」(金モール大禮服)「イブニング、コート」(燕尾服)「フロック、コート」(通常禮服)の三級に分ち、「モーニング」を禮式用に間に合はする向もあり、禮帽には「シルク、ハット」と定まれり、これは明治の初年岩倉公が佛國巴里に於て制定せしものにて、「シルク、ハット」は矮小なる日本人に甚だ不適合なれば、別に國帽を制定すべしとの議其道の間に起りて、一時論議紛々殆ど其歸着を知らざりしが、遂に「シルク、ハット」を日本の禮帽とは一定したるなり、通常山高帽子を往々禮式用と爲すもの、世間其大半を占む。

我國の今日は和洋混合の有様なれども小笠原流の禮式は多數の人に知られ居れど、洋式の眞粋を得るもの多しと爲さず、和洋折衷を稱するものあれども、斯の如きは花を愛して反つて枝を折り、和式には和式の美あり、洋式には洋式の美あるを知らざるものなり。

槪して我國人は未だ悉く洋式の如何を知らざれは、卒然洋式に遇ひ

米人の米食法

日本にては、米は常食なれども、外國にては、菓子或は野菜の代りに用ゆ。先づ米國にて米を菓子に用ゆる方法を聞くに、米を洗ひて糠を除き、通常飯の加減より、少しく水を多くし、少量の塩砂糖を入れて廿分計り煮、未だ米の固き中に水をすてゝ水のかわりに更らに牛乳或はクリームを入れ、米の能く煮ゆる迄火上におき、さて火より下して、冷めたくなりたるとき、適宜の大さに刻みて、焼き鍋に油をひき、その狐色になりたるとき、皿に盛り、そのまゝ客に供するもあり、或は卵を半熟にして、その上にかけて供するもありと云ふ。

ジヤガ薯の葛煮

ジヤガ薯の皮を剝たるものを小さく刻ざみ、暫ばらく水の中に入れをき、やがて取り出だして、塩湯の沸騰せる中に投じ、能く煮へたる時湯を去り、更らに葛を塩と砂糖にて加減し、乳にて煮たるものを掛けて食膳に供す。

『買ひた誌』

一錢一厘生

『買ひた誌』とは、余が近頃思付の帳簿なり。余は富有ならず、買ひたく思ひし品物も、直に買ふとを得ず、かゝる所より思付きたるなり。新聞紙の廣告を見、朋友の談話を聞て、是非に購求す可しと決心せし書籍の如き、あたかも金錢の蓄なく、直に買ふ能はざるより、其の内には忘れて了ひ、他日其書籍の必要を感じて大に殘念に思ふ事あり、其のくせ無汰の物は手當次第に買ふて隨分顧ざる也。こゝに於て余は一冊の帳簿を造りたり。而して買ひたしと思ひ付きし品物ありし節には直ちに其品物の名、代價、若しくは賣捌處、思付きの月日迄でも書とめ置くなり。斯して種々雜多の品物は書とめられ、代價は積りて幾圓幾十圓となる也。顧て自ら其金高の夥しきに驚く。日常欠で濟まぬ費用の外に金錢餘る、則ちさきの帳簿を繙へし、どれが最急、最要なる可きかを撰び、その撰に當りし品物を買ふ、品物愈々わが手中の者となれ

ば、帳簿より之を消してほゝゑむ。
余は今日迄で實行し來りて甚だ便利を覺へたり、第一、貯蓄心を增す、第二、無駄の品物を買はず、第三、最急最要の品物を撰ぶを得。
顧ふに金錢は、其の儲くる難きが如く、之れを使用する亦た難し。使用するの難きは則ち使用の道の難き也。使用の方法其の宜しき得ずんは、其儲も眞の儲とならざるべし。一人の經濟然り、一家の經濟亦た然り。かの宵越の金を持たぬと意張る勞働者の細君にして、巧に此の帳簿を利用せば、二ッの茶碗は三ッとなる可く、農家の細君之れを利用せば、一挺の鎌は二挺となる可く、學生之れを利用せば、架上の書籍は次第に其の數を增さん、平民主義の同胞姉妹以て如何となす。

社交一斑

西洋禮式一斑

洋齋子

現今我國民の衣食住の三大生活上及社交上の有樣は如何、曾て井上伯が外交の任に當りし頃は、洋風全國を風靡し、鹿鳴舘裡洋音朗々舞踏翩翩たる時代には、精養軒のソップは價高く、八百松の主人を泣しめし反響は機敏なる白木商店をして洋服店を開業せしめたりき。爾來社交上の嗜好は一變して復古的國粹的に傾き、羽織袴に八百善松源の時代とはなりたりけり、然れども竹の園生の大會盛宴より一般國民の冠婚喪祭に至るまで、洋式を用うる所以のものは、職として洋風の簡略にして作法宜しきに歸せずんばあらず。

然り而して衣服の點より現今行はるゝ禮式用を言へば、「ユニフォルム」（金モール大禮服）「イブニング、コート」（燕尾服）「フロック、コート」（通常禮服）の三級に分ち、「モーニング」を禮式用に間に合はする向もあり、禮帽には「シルク、ハット」と定まれり、これは明治の初年岩倉公が佛國巴里に於て制定せしものにて、「シルク、ハット」は矮小なる日本人に甚だ不適合なれば、別に國帽を制定すべしとの議其道の間に起りて、一時論議紛擾殆ど其歸着を知らざりしが、遂に「シルク、ハット」を日本の禮帽とは一定したるなり、通常山高帽子を往々禮式用と爲すもの、世間其大半を占む。

我國の今日は和洋混合の有樣なれども小笠原流の禮式は多數の人に知られ居れど、洋式の眞粹を得るもの多しと爲さず、和洋折衷を稱するものあれども、斯の如きは花を愛して反つて枝を折り、和式には和式の美あり、洋式には洋式の美あるを知らざるものなり。

概して我國人は未だ悉く洋式の如何を知らざれば、卒然洋式に遇ひ

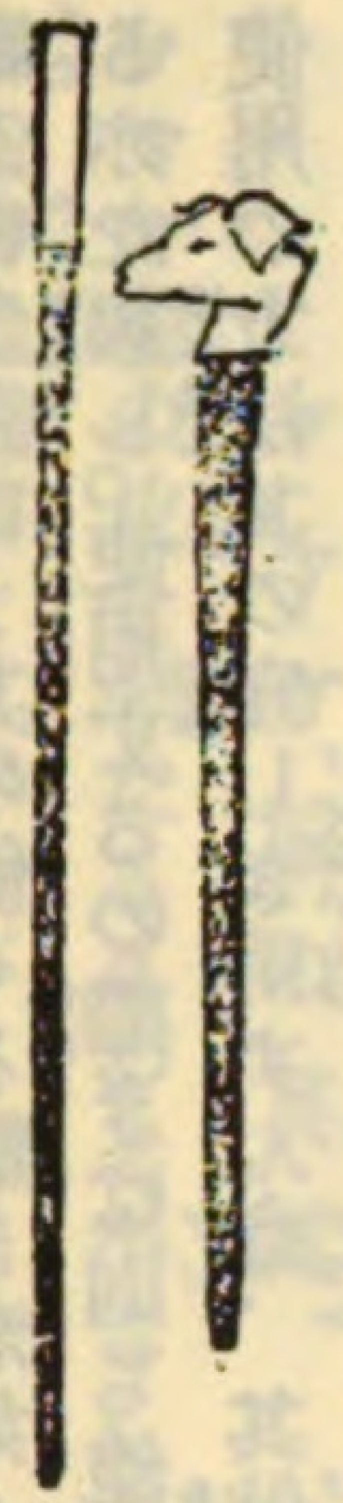
て靴を冠にするの笑話なきにあらず、逆ヂポンの紳士、逆襟の議員更に怪しむに足らず、却て之を笑ふもの大禮服を着用して狩用靴を穿ち、神聖なる會席に酒醪を用ゐて顧みざるものあるにあらずや、予が之より號を次で西洋諸式の衣服飲食等の諸件を叙せむと欲するものは、敢て洋風を崇拜するの意にあらず、聊か記して我國人の參考に供せむが爲なり。（未完）

流行のしはり

[illegible]

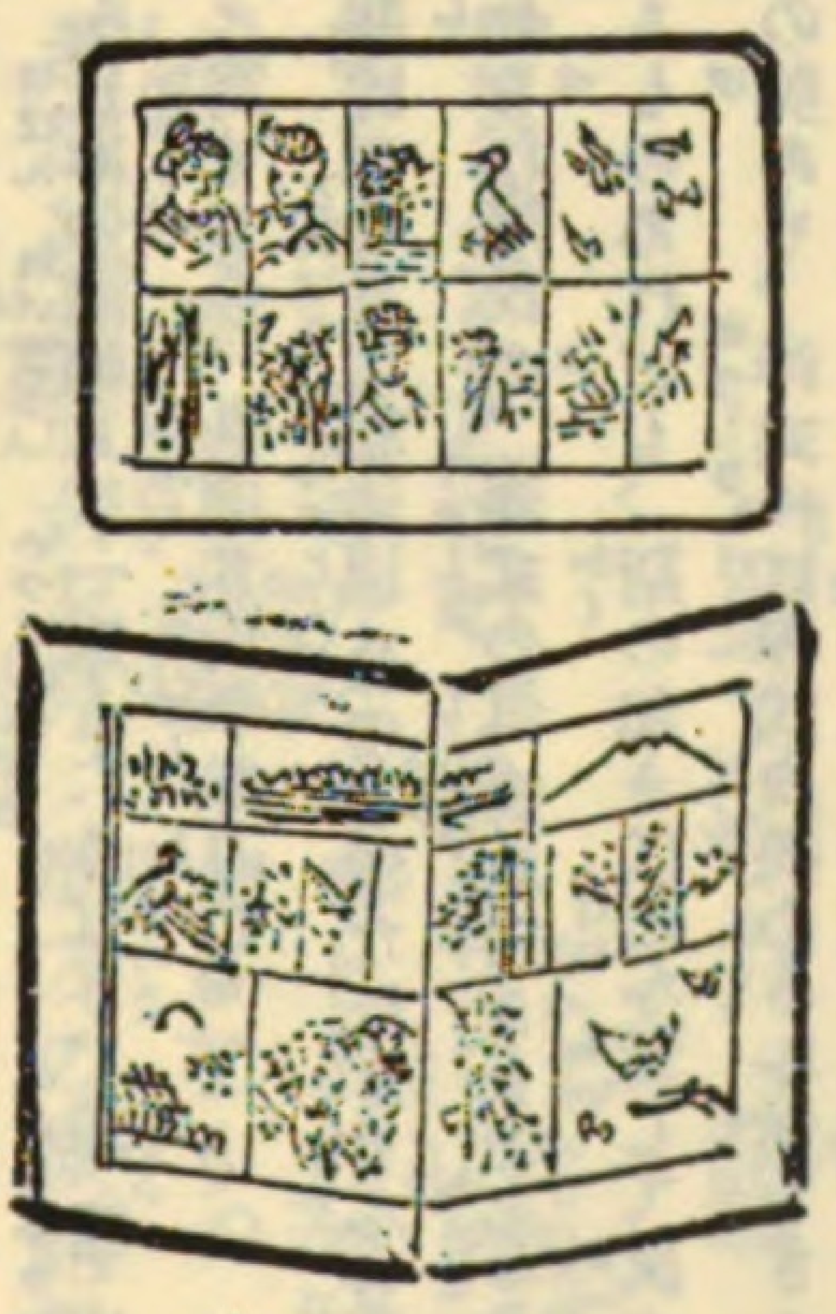
流行の「ステッキ」

未だ保安條例及警戒令の撤回せざる爲にや書生連の武骨漢と雖も屠狗大の溫棒を用ゐるものなければ、「ステッキ」屋にては自然木又は山椒木の流行少く又冬季は「ステッキ」を用ゐるもの甚だ稀なり、而して其流行はさいふに洋犬の頭つきたる榎木又は唐木重に用ゐられ、花車なる向には天地に銀を嵌めたる籐の細々したるもの最も多く用ゐらる。



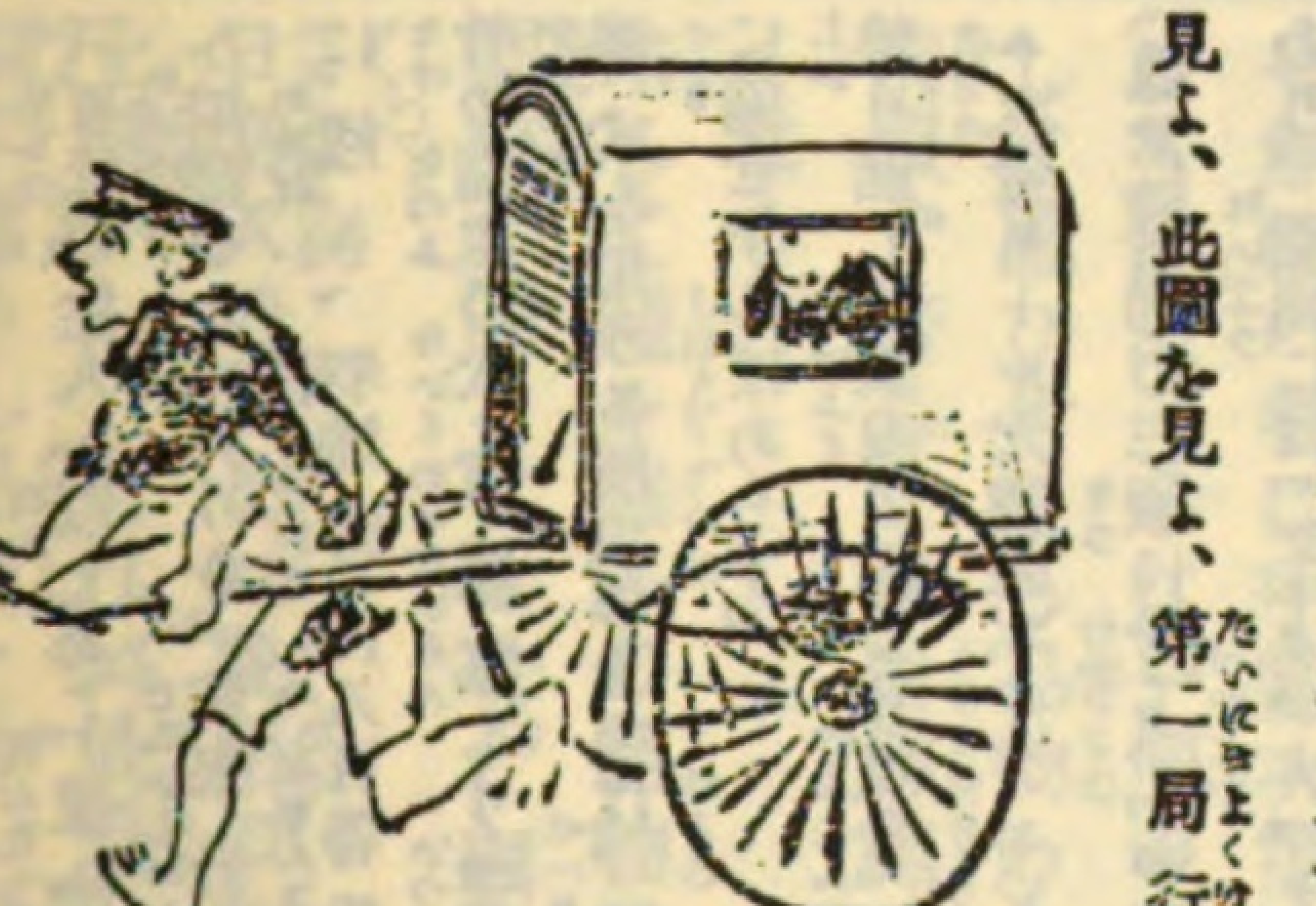
一種の額面及机屏風

予が到る處三四軒に一種の額面あり、其は舶來の卷烟草の紙箱に添ゆる「カード」或は各國の旗號、或は各國の舞女或は各國の藝人）を集め張りたるものなり、一見甚だ美麗なれども、到底卑俗の域を免れす、他に「オールド、ゴール」の「カード」を配列して机屏風を爲す、これは燈光の反映を求むる用に供する爲なるは、一寸工夫面白し、必竟斯の如きは我國に舶來煙草需要者の多きを代證するものなり、因に云ふ若し這般の物を美術品若くは裝飾用と爲さむとならば、八十枚若しくは百二十枚の「カード」、「カメナ」を其會社に贈らば、米國の本店よりは極美極奇なる一冊を贈り返すべし。



箱腕車

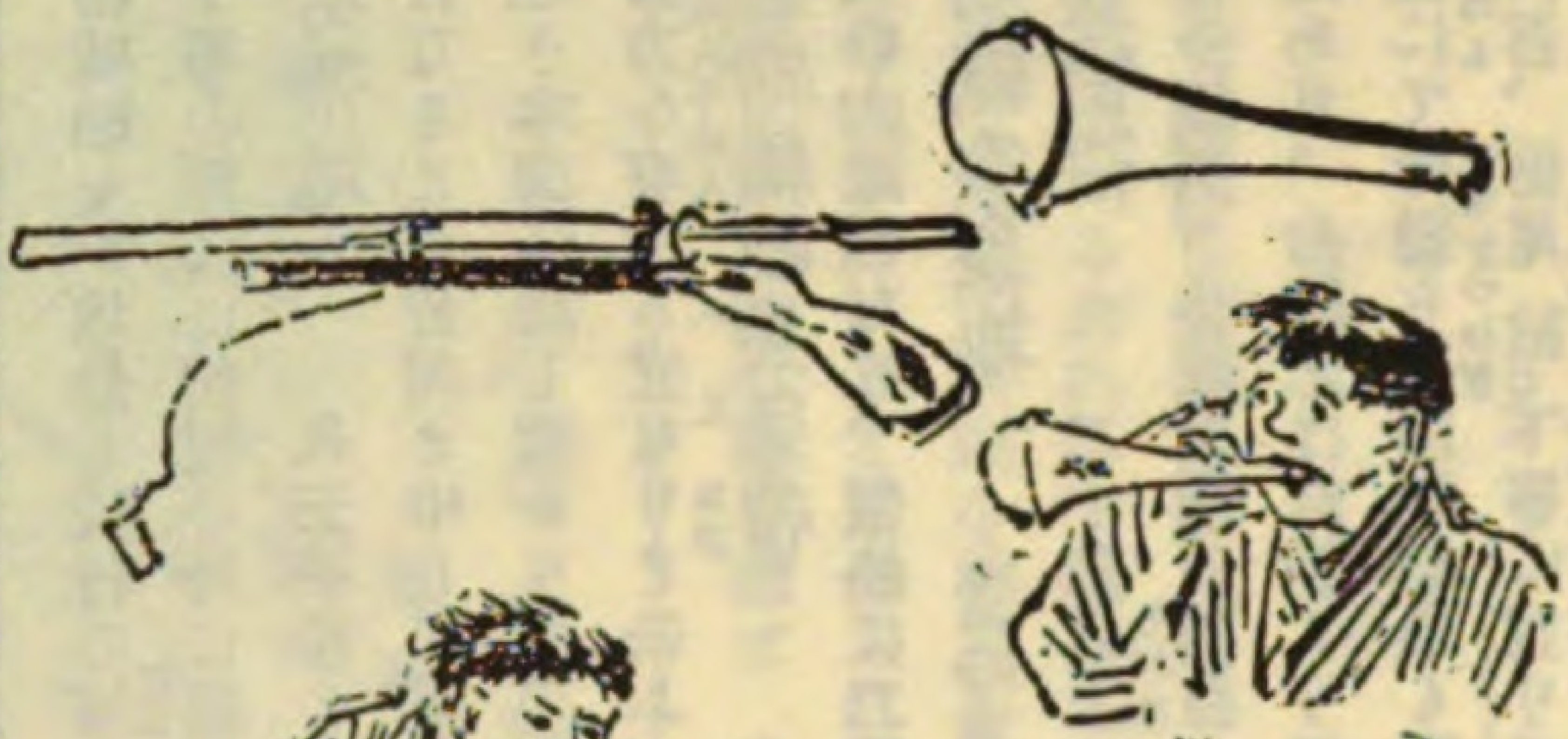
見よ、此圖を見よ、第二局行の箱馬車を小にしたるが如く、郵便逓送車を黒くしたるが如きは、近來流行の箱腕車なり、予は始め通常の馬車臺を腕車に載せ行くものと輕々看過し居たりしが近來三四回も之に邂逅し、愈々其の箱腕車なるを確め、汗走するものは、馬にあらず人なることを知り得たり、昨今の如く風塵千丈通行人の耳目を眩擊する時には、大に普通の腕車に優る所尠からねども、余り酔興好きものにあらず。

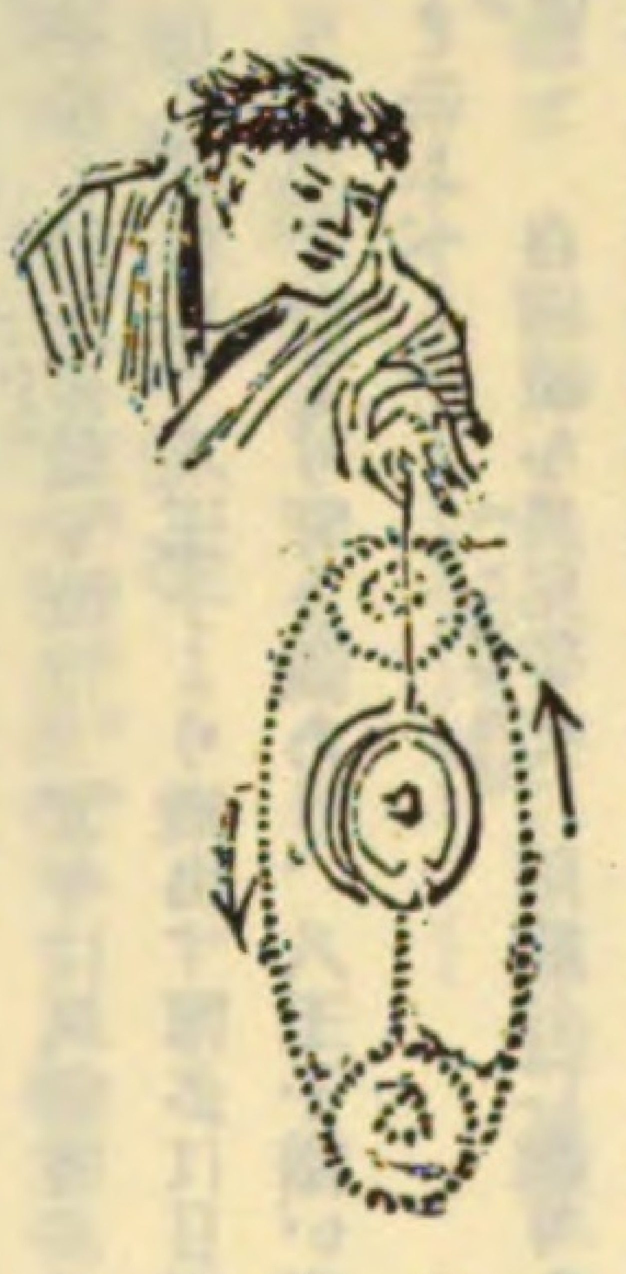


流行の花簪

追々桃櫻の季候となるを以て花簪の專賣人形町通りの豊年家にて桃櫻は勿論今度新に海棠の生花迄を羽二重絹にて製出して賣出したり、生物と見紛ふ許りの上出來にて價は一本十五錢位なり。又桃は紅白二種の八重造りにて一本十二三錢。櫻は同く羽二重にて一重咲八重咲あり。最上十八錢位なり。又菜花の物は一本二錢五厘位なるが是れ亦頗る巧に出來居りて眞物と見紛ふ程なり。

理學的の玩具





明治產出の小兒は明治の文明と相伴ふものか、なか〳〵在來のデン〳〵太鼓、犬張子にて承知せざれば、銀刀、銀槍の尙武的玩具にても滿足せず、かゝるが故に玩具の性質も大に進歩したり。其重なるは理學の應用なり。其一二を擧ぐれば上圖の如く一人の小兒が一管の中より氣を吹きて管頭の位置を變ぜしめざるは、空氣の抵抗力を平均せしめ物の墮落を防ぎたる實驗なり。一人の鐵砲は筒口に木栓を詰めて空氣の壓力によりて發聲發砲する理學上の小實驗なり。轆轤細工の平球を上下するは、一絲の上の反動力を示す。斯の如き玩具は小兒の腦髓に不知不覺の間に科學の智識を養ひ、價値も安價なるものなれば、家庭用には至極なるべし。其他ブリキ製自動的玩具（時計、自轉車、馬乘、滊車、馬車の如き）多く行はるれども意匠と工夫の多きに從ひ價格も廉からず。詳しくは探梅の歸途可憐の子女を連れて芝山內邊の勸工塲を訪はゞ、あれよ是れよと子女にせがまるゝ玩具の類タントあるべし。

流行の袷

天下の男女十人が八人までは、四季折々に衣裳の移替を爲すは容易の事にあらず、況してや當今の如きセチ辛き世は、中等以下は今日の生活に齷齪たる時世なれば、爲ぞ時の流行を追ふて衣裳の撰擇に暇あらむや、況してや貧民社會に於ては脊の肉を殺ぎて腹を滿すの時世なれば、爲ぞ新衣を求めて餓腹を碇ふの餘裕あらむ、多の人民は袷を以て冬を過し、綿入を以て袷に代ね、甚しきに至りては一枚の浴衣を纏ひて嚴冬を凌ぐもあれば、貧者に於ては夏冬の差別更になし、袷をや、綿入をや、單衣をや、帷子をや。

然れども四千萬人中、裸体ならざる限は、新に衣服を調ふるもの又寡とせず、されば切角新規に調成する衣服にして流行に外つるれば、社交上大なる損の行く處多し、流行を追ふは奢多的の傾あれども、亦經濟的なることを知らざるべからず。今茲に流行の袷を摘記すべし、然し袷と綿入とは綿の入ると入らぬまでの差違なれば其品柄に於ては彼より此に轉ずるの間其流行に差したる異動はなき筈なり。唯た追々と夏向となれば品地の厚薄と色合の濃淡はあれども、之とても一般の流行は大抵同じ事なり。

男物袷　品は在來（前號及び前々號を參照ありたし）新形上等に至りては西陣縞琥珀、同綾琥珀、袷に最も佳なり。上等と中等との間は

結城紬セル地最も流行の傾きあり。中等には伊勢崎銘線、節絲のセル地、下等の部には前報の外に蓙二子流行の兆をなせり。

男帶地

八王子產の紋博多最も流行、當今は筑前博多本場は不流行なること皆無と申して可なり。八王子より織出す博多は日增に精巧に趣き本場に比し藍より出でゝ藍より青き觀あり、八王子織が衣服社會に勢力を有する宜なりと云ふべし。

白縮緬の兵兒帶

白縮緬を兵兒帶丈に兩端付に織りたるもの近來の大流行なり、價格は二圓五六十錢。

羽織の裏地

常時專ら流行するものは、綸甲斐絹是れなり。

女物袷

二十歲以上には西京紋御召、以下には立木框、菊水、垣根の縞柄。小紋縮緬の縞目、角通、薩摩筋、毛萬筋の縞柄最も流行の傾あり、勿論之は前號より以外の新形と知るべし。中等には目下各呉服屋にて相變らず山絲織最も賣口よしとの事、次の流行は米澤絲織、桐生御召、栃尾紬。下等に到りては例の双子なるが、流行の傾あるは白ッぽい鼠縞の亂立、搦子縞等なり。

女帶地

繻珍の御納戸、海老色流行、相變らず丸龍模樣も同斷なり、極平民的にて小倉の繻珍織なるものあり、不斷帶に用ゆ其經濟的德用的なることは他に匹儔を見ず、代價は九寸にて値に五六十錢、如何に廉なる帶地ならずや。

流行色

淡鼠、藍鼠、利久鼠、舍利柿、これは男女を通して、

裏地の價格

花色絹は一疋六圓より八圓内外、秩父絹は一疋五圓より八圓内外。

三不似外套

道行にあらず被布にもあらず乃至合羽にもあらざるは何ぞや、近來男女共に流行する羅紗製淡鼠、茶、黑色の無名の三不似外套なり。

春夢申す、本號には未だ記載すべき流行品尠からざりしも編輯締切に迫り止を得ず之にて筆を擱し、次號には讀者に報ずるの寡からざるを期す。

前號の社交一斑中の「しやぐま」の髷の圖は、大に實物と異り、毛のちゞれざるは、予が畫工に實地に就きて寫生せしめざりし誤りと知り玉へ、茲に其粗漏を謝す。

日用品物價　(三月十日)

⦿白米　前月十五日より以來曾て變動なかりし則ち(一圓に付き)●一等九升六合●二等一斗〇一合●三等一斗〇七合●四等一斗一升四合●五等一斗二升二合

⦿雜穀　則ち(一圓に付き)●梅澤大豆一斗九升六合●御社大豆二斗〇●下總大豆一斗九升二合●朝鮮釜山大豆二斗〇二合●南京大豆二斗〇●同青大豆一斗九升八合●常州大豆一斗九升●越後大豆一斗九升五合●本石大豆二斗〇三合●背柳大豆一斗九升●地廻並小豆一斗八升●吟小豆一斗六升五合●流山背大豆一斗八升●當金々時一斗六升五合●川越豌豆一斗六升二合●同空豆二斗三升●鶉隱元豆一斗四升五合

⦿鹽　前報より聊か上進の傾あり相場大凡二分高引締れり●赤穂三俵二分●大鹽三俵三分●本齋五俵六分五厘●新齋改良六俵二分五厘

⦿鷄卵　百個に付●本〆十四匁一圓十錢より一圓十五六錢●天切名目十四匁一圓五六錢より一圓七八錢●大玉本〆十二匁九十錢より一圓●中玉八十錢より八十五六錢●並玉七十錢より七十六七錢

⦿薪　(一圓に付き)●上總木更津出堅五分一三十二束より●雜五分一四十二束より●同黒木三五寸〆廿八束より●同黒木三十八束より●同松雜三五〆四十束より●同無才五十五束より●同大堀出堅木五分一三十二束より●同雜五分一四東より●同堅五六〆廿四束より●同雜五六〆三十二束より●同松五六〆十五束より●同無才六十束より●同姉ケ崎出松六八七十束より●同無才九十束より●同久保田出松大八六十束より●同無才七十五束より●同姉ケ崎堅大八三十八束より○下總久角山●西川三尺三寸廻り十束中●同西川三尺廻り十二束中●同

縫四川三尺廻り十四束●同西川二尺八寸廻り廿一束●同尺才廿五本●同九寸才三十五本●同八寸才四十五本●同六寸才七十本●同五寸五分才八十五本●同五寸才百本●同四寸五分百十五本●同四寸才百三十本●同三寸五分才百六十本●水更津出松三五〆五十五束●無才六十束

⦿食料鳥類（以下一〆目に付）

●若鷄一圓より一圓廿五錢迄●丸鷄九十五錢より一圓廿錢●爪鷄七十錢●家鴨一圓四十錢●七面鳥二圓

（一番に付）

●眞鴨一圓廿錢●同小鴨四十錢●雉子四十錢より八十錢迄●中鴨六十五錢より八十錢●眞雁一圓廿錢

（以下一羽に付）

●鶉十四錢●土鳩活鳥にて十一錢●眞鳩九錢●眞鴫九錢●鴫八錢五厘●五位鷺品切

雜録

遺珠顆々

若し他人に其過を知らしめんと欲せば其人の心の亂れたる時には其事を語り出づる勿れ

ウアッツ

小供の爲めに快樂を供するの手は祝す可きかな何時何れの處に播きたる花の咲き出づるとも知られざればなり

ゼロルド

沈默もつて汝の怒を殺せ

亞剌比亞古諺

貯蓄の話（三）

東海貯金銀行

日本橋區檜物町十五番地に在るは東海貯金銀行なり、株主の無限連帶責任を以て營業し、其資本金五萬圓、之を公債證書とし、之を拂戻の準備となすと云ふ、議長は川崎八右衛門氏なり、

一と口十錢以上何程にても預り、毎月十日まで預入の分は其月より利子を附し、其後は翌月より利附となるべし、又預け高二百圓に滿るときは其上は預けたる翌日より拂戻の前日まで日歩割にて利を付くるなり、預入手續は他の同種の銀行と大同小異にて、印鑑簿に預主の住所姓名を認め捺印したる上通帳を受取るなり、爾來は預入の度毎に之を持行きて記入せしむるものとす、

利子の割合は世上の金融に從ひ増減すること他の同種の銀行と同じと雖、目下は年六朱にて毎一月七月元金に組入るべし、

今此割合を以て積算するに、毎月一圓づゝ積むとして廿年に及べば、其元金二百四十圓なれども、年六朱の利殖を以てすれば、四百六十圓となるべし、五十年なれば實に三千七百圓となる、即ち

年六朱にて毎月預けとして

一ヶ月分	五十錢宛	一圓宛	五圓宛
一年	六円、一九七厘	一二円、三九三厘	六一円、九六六厘
五年	三四、九九五	六九、九八七	三四九、七三一
十年	八一、九九〇	一六三、九六四	八一九、九四四
二十年	二三〇、〇八九	四六〇、二二六	二、三〇一、一二八
廿五年	三四四、二一五	六八八、四九二	三、四四二、五八二
三十年	四九七、五八九	九九五、二六一	四、九六七、五一四
四十年	九八〇、七二二	一、九六一、六六七	九、八〇八、三八八
五十年	一、八五三、二八一	三、七〇七、〇四七	一八、五三五、三四六

（をはり）

家庭小話

第四　太郎の家鷄、姉の花園、

山田の家に家鷄十羽を飼ふ、之れが萬般の世話をなす者は太郎なり。之れ太郎の役と定まり居るなり、朝夕、戸屋よりの出し入れ、皆な太郎之を勤む、太郎は年葉ゆかざる少年なれど、家鷄を取扱ふ事極めて親切周到なり。犬に追はれぬ樣、狐にぬすまれぬ樣、病に罹らぬ樣、畠畑を攪さぬ樣、椽にのぼらぬ樣、太郎悉く注意す。若し牝鷄巣に就く時は、太郎の介抱至らざるなし、時々の餌食飲水怠たりなく運こびやるなり。愛らしき雛の啼き聲母鷄の羽の下に聞ゆる時の太郎の喜び譬へん方なし、日向に連れて温ためやる事、猫、烏の攻撃を防ぐ事、濕氣にさわらぬ樣雨を避けさす事、凡そ太郎は限りなき温和き心と、倦まざる勞働とをもて、母鷄と共に雛の生長をいのる。

日々家鷄が生む卵五六個の中、一個は太郎食し一個は父食し、母も姉も各一個を食し、若も猶一二個を餘す時は蓄へ置て之れを賣り、太郎が學費のたすけとなす也。

山田の家に一圏の花園あり、其の廣さ二坪半を出でざれど四季をり〳〵の草花其の種類を盡して植えられたり。之れが世話は太郎の姉悉く勤む。水を灑る事、惡虫をとる事、種を撒く事、杖を加へる事、霜よけをなす事、姉の孃は皆な自ら爲す、薔薇、牡丹、桔梗、石竹、菊、其のほか幾種幾樣の美花、時節々々に咲き



出づれは、孃は朝早く起出て丶、露に眠る花園を見回はり、時に二枝三枝剪みとりて、床に挿し或は隣家の友に贈ること此の上もなき樂みとなす也。

春日のどかなる日

曜日の午後、花園の百花咲き亂れて、胡蝶蜻蛉翠紗を飜へして飛こふ頃、孃及び太郎、父など連れ立ちて花園の傍をめぐり、彼よ此れよと品評すること田舎の民の幸福とや言ふ可き、羨ましき一家なり。

談　叢

『春日にても天照太神にても通すべからず』

『賣家と唐様で書く三代目』。人の汗と血とを以て購ひ得にし富も境遇も、子の代は猶親の行の見ならはせもあらんなれど、生れぬさきより之を貰ひ受くる孫の時となりては、汗と血との直段は忘られて只管に賣家の二字を唐様に書き習ふが常ぞかし。

然るに江戸将軍の天下は十有五代も繼續し賣家の札の三百年間張られざりしは、唐様のうがちをめちや〳〵にしたるものにて唯事にはあらぬなり。

其故は職分といへる字の極めて重くして此の二字の重さには名譽も利益も權勢も乃至命も換られぬ程なりしこそ、斯る不思議も出で來りつれ。

徳川三代將軍の時に當り、春日局といへば將軍擁立の手柄によりて天下の母とも尊ばれぬ。去れば其威權は飛ぶ鳥も落るばかりならんに、硬骨の人は未だ世に多くして、職分の目よりは天下の母をも塵芥とも見ざりしぞ床し。

一日春日局が夜に入りて平河門を通らむとなしけるに、門は早閉ぢられてければ開けといふを、門番頭久松彦左衛門といへるをやぢいつかな聞入れず、『これは春日なり、無禮なる事しては後日の咎めも恐るべし』といへど、彼は頑乎たる頭を打振り『春日てにも天照太神にても斷りなくては通すべからず』とて動かざりき。

天下の母も職分の二字の重きをば如何ともするよしなく、内より斷りの出るまで平河門外の夜の風に吹きさらされて一時はかりも待ちに待ちしが、やう〳〵斷り出で、彼女は始めて職分の關門を通りぬ。

局入て將軍に見へけるに、將軍は『何とて斯くは遲かりつる』との仰なり。局しか〴〵のよし申しあげ、『これ全

く君の御威嚴のいたす所にて令行はれ禁止むは目出度き御世のしるしぞ』とて、いたく頑固なる門番を稱賛へける。將軍も笑て、『我も門禁をば常々おごそかに申付け置きし』と言ひけり。

時の人之を稱しけるは、『令行はるゝ將軍の威嚴はさる事ながら、局が賤しき門番の爲に一時ばかりも待たせられながら、能く職分の二字を思慮し、じれ腹立つ事もなきのみならず、深く其硬骨を嘆美して止まざりしは、流石は春日局とてなみ／＼の婦女にはあらざりけるよ』と。

此の一事にても德川三代の天下か賣家札を張らざりし所以は著けかるべし。

火中の花

火にも入りつべし、水にも赴きつべし、火は肉躰を燒けども我が信仰をは燒かぬなり。水は肉躰を溺らすれども我が信仰をは溺らさぬなり。

信仰ある故に據る所あるなり。據る所ある故に立つ所あるなり。立つ所ある故に斯に其獨自一己ぞあなる。」去れば大なるものは信仰の力なり、衣に得堪へず思はるゝ手弱女も、信仰の地盤に立ちては凜乎として何物にも屈する所なきぞかし。

日本の節烈史の中にて殊に名高き細川忠興の夫人の如き、眉は遠山の春の月と匂ひ、姿は柳の風をも厭ふめる風情なりしに、彼女は神の惠みの下蔭にその安き心を置きてけれは、確乎として據る所のあり、世にも壯烈なる宗敎信者の本色をぞ顯はしける。

彼女は實に此日に於ける基督敎信者中最も信者らしき信者にして、深く物の道理を究めし上に之を信じたりしなり。

彼女の父明智光秀はもと基督敎の信徒なりしかば、彼女の眞の道を求めんと欲せしも一日の事にてはあらさりしならんか。蓋し當時はゼシウェット派の基督敎大に我邦にひろごりき。

而して彼女は氣高く聰慧なる婦人にして、其良人の友なりし人の屢々良人に信敎の勸誘をなすを聞き、彼女

は說敎を聽きて見まく思ひ立ち、竟に良人の外征してあらざりし日、一日セペート氏の會堂に數人の侍女にかしづかれて彼女は微服してありき。

彼女の良人は性豪猛なる人にして、彼女の信敎の自由を壓制せしかば、彼女は常に其侍女をして疑義を質さしめ、後に至り侍女を介して始めて洗禮を受けき。去れども彼女は決して妄信するとを好まざりければ、自ら基督敎の秘蘊を知らんと望み、洋書を讀み、洋文を作るを學び、後には能く羅甸若くは葡萄牙の國語を書き得るに至りぬ。

彼女がカスペード師に贈りたる書中に云く、

予をして佛敎を放棄せしめしは固と人力に非ず、予をして正路を知らしめしは久しく祈願したる天主の洪恩に因れり。且天主の仁惠を以て予の昏瞑を救助せられし以來、其致に非れば決して天堂再生の方を得べからざることを確知す。寰宇壞頽し、海陸變遷、萬物消滅に至るとも、予は天主の恩に由りて確乎として安全を保つべし。

と。亦以て其信仰の如何ばかり堅固なりしかを察するに足らん、彼女が當時の衆貴婦人に立まさりて尙ぶべき操をあらはしゝも盖し故なきにあらぬぞかし。

去ればにや此頃我邦の主權者たりし豐臣秀吉は、最も愉快なる人なりしも、極めて不品行にして、其伏見の邸に在りし時の如き、諸侯の夫人を招きて之を猥し、好からぬ風評もありけるが、彼女は其時『女の人なきに一間に入りて他人に見ゆることやある』とて、懐に匕首を用意しければ、秀吉も恐れてそれより不品行やみけるとなん。ア、彼女は實に潔き婦人なりしなり。

後豐臣家の奉行と德川家康との軋轢始まりける時は、彼女の良人は家康の有力なるかとふ人なりければ、奉行等は彼女を人質に取らんとしける。然るに彼女は之に應ぜずして、討手來りて其大坂玉造口の邸を圍める時、まづ其叔母宮川殿及び子忠隆の夫人前田氏を他所に落しやり、而して自らは徐ろに天主に祈りを捧げつゝ、小笠原正齋をして介錯せしめ、あたら芳はしき彼女の魂は終に神の國へと上りゆきぬ。

ア、花は散りけり、春在二東風一原是夢、生非二薄命一不レ爲レ花。彼女が此時紙に書きつけしを取り傳へけるとて猶殘れる歌あり、

先だつはおなしかぎりの命にも
まさりてをしき契とぞしれ。

時事一斑

文部大臣

三月七日、文部大臣河野敏鎌氏は去て井上毅氏代りぬ。毅氏は列祖列宗的法律家なり。

婦人同盟軍起らんとす

東京婦人矯風會の有志者は全國婦人會を聯合せしめんとて、二月四日麻布本村町なる津田初子の家に集ひ、まづ日本婦人會聯合本部を定めんと、乃ち委員五姉を擧けぬ。

矢島かぢ子　津田初子　潮田千勢子
佐々木豐壽　竹越竹代

集れは強く分るれは弱し

婦人會少なきにはあらさりき、有爲の婦人なきにはあらざりき、去れども日本婦人の運動が是迄さまで目覺ましからさりしは何故ぞや。一滴の雫も集れば以て舟を浮ぶるを看よ、若し日本全國の婦人にして北は北海の濱邊より、西は長崎の海角より、幾多の總代は來て中央に會し、以て其なさんと欲する所の事をなさん乎、其の勢力の程想ひやらるゝぞかし。

我儕は滿幅の希望を以て日本婦人會大聯合の成らんよを待つ。

先づ遠征隊を組織せよ

我が姉妹はウヰスト孃を記臆するか、彼女は道の爲とて遙々日本にまで來り終に不歸の客となりしにあらずや。ア、勇氣ある我が全國婦人の大同盟を作らんと欲する姉妹よ、姉妹は如何にして乎之を作らんとしたまふ。」人を起さんと思はゞ先づ自ら起きざれば叶はざらん。

吾儕はまづ勇氣ある姉妹に全國遊説の途に上るべき遠征隊を組織せんことを勸む。五人可。三人可。一隊可。數隊可。

大聯合は坐して成るべきものにあらざるなり。又目的なしに成るへきものにあらさるなり。

郡司海軍大尉

郡司大尉は一行百二十人、舟に墨水の春隄より取り乘り、將に地を北風吹きすさむ千島の荒磯に拓かんとす。壯行人多く美す。

放膽的日本

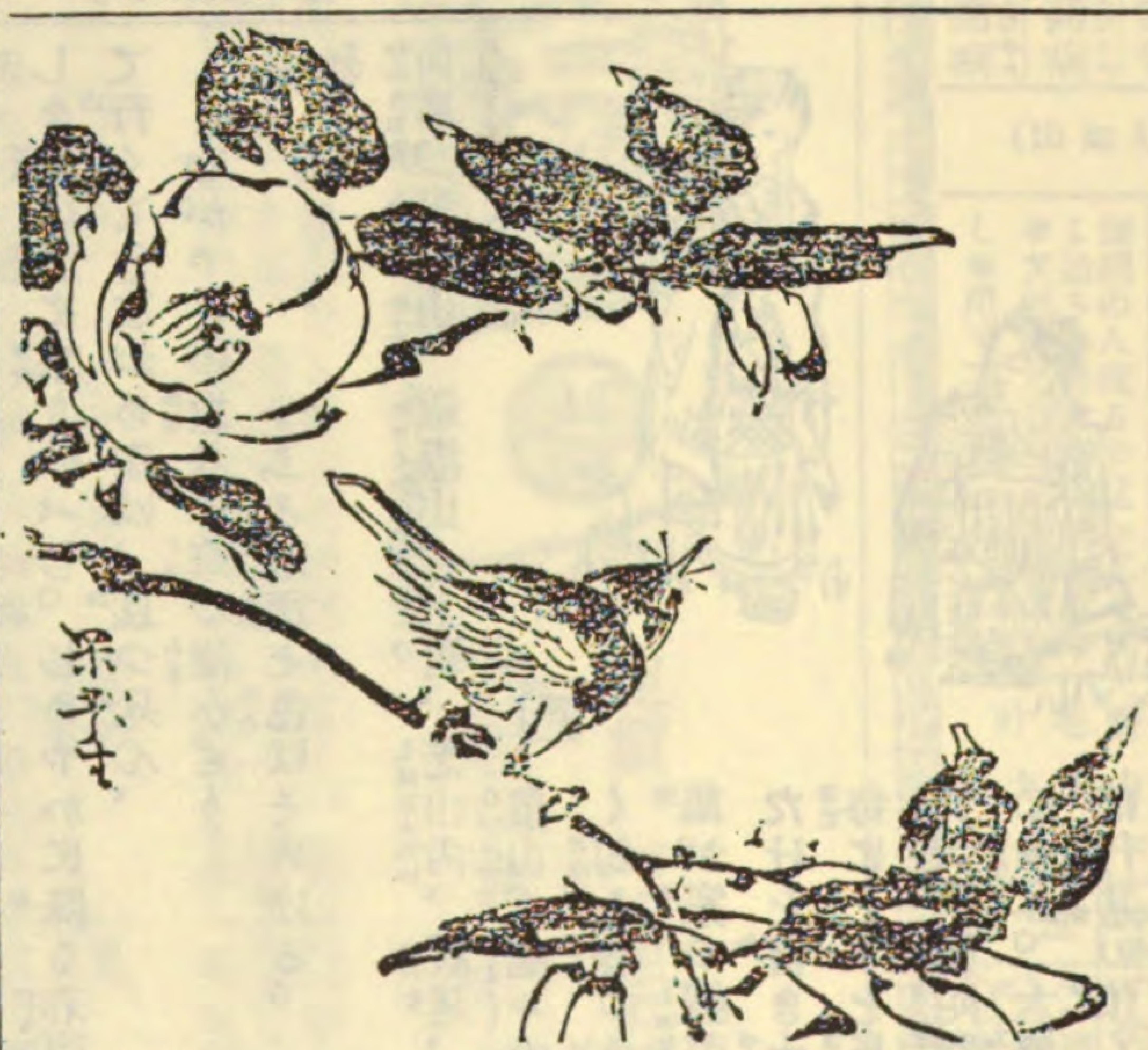
冒險企業者漸く多く出でんとす、元龜天正時代に於ける放膽的日本人の本色は再ひ應に發揮せらるべき乎。ア、曙光は國の前途に見ゆめる。

日本大學生の前途

日本大學生、明治九年より廿五年秋に至る、業を卒へて講堂より退きしもの一千七百八十七人。中に官吏となりしは七百四十人、準官吏及ひ官吏の資格あるものとなりしを合すれば、一千八十人、是れ注意すへき事なり。最高等の教育を受けて無職業及ひ職業未詳の者百五十八人、是れ注意すべき事なり。

行樂

春は年々に來れども人も我も厭きはせじ。青帝至公にして到らざるの、地なし、鳥は何處にも歌へり、蝶は何處にも舞へり。天さがる鄙人も以て遊ぶべし、雲井に近き都人も以て樂むべし。



樂〳〵に」「なきなり。遊びに都鄙なきなり。我儕はまづ江都三月の行樂をしをりし、以て天下の春

の先驅をなさむと欲す。
春晝料峭、常は二月の末つかたに開くべき梅も、今年は今日この頃、春は枝頭に半開の花あり。來らんと欲してことさらに遲し、底事ぞ春色の人をじらさんとするやは。
左は去りながら『冬ごもり春さりくれば、足引の山にも野にも鶯の鳴く』。
都下にて鶯の聞くべきは、根岸の鶯谷あり。日暮里の邊あり。小石川の鶯谷あり。下谷なる入谷の里あり。神田明神の森あり。藪の鶯聲猶澁る。
上野公園、日暮里、谷中七面堂邊の彼岸櫻は勿論未た早かるべし。
上駒込、染井、入谷の里、大久保などの櫻草は如何。」川崎近傍、市川近傍の冷艶雪を欺くべき梨の一枝の花、巢鴨、染井、寺島花屋敷、平井聖天、木下川淨光寺、王子、瀧川などの七重八重花咲く山吹、共に三月のものにはあらじ。
唯深山には松の雪たに消えなくに、都は野邊の若菜摘むべきならひなれば、萌出る春の心を摘むも罪なき樂しき時は應に來りぬべし。しめやかに降る春雨の晴れて行くてをながめなば、且つ見ん、

わがやとの垣ねの草の淺みどり
ふる春雨そ色はそめける。

を。
向島、飛鳥山、道灌山、上野、芝山內、廣尾、落合、鼠山。處々の風光淡く匂る春の色々は、誰が家の嫁菜、心のたけを書き土筆。手毎にをりを早蕨。



又六阿彌陀詣は彼岸に賑ふ。六阿彌陀とは行基の作くれるもの。所在は、一番、足立郡本木村長福寺。二番、南足立郡沼田村甘露山延命寺。三番、北豐島郡西が原村佛寶山無量寺。四番、北豐島郡田畑村寶珠山與樂寺。五番、下谷廣小路寶王山常樂寺。六番、南葛郡龜戶村西歸山常光寺。

ヘルス

定價		郵稅
六合分	十六錢	二錢
一升二合分	廿八錢	二錢
三升分	六十五錢	四錢
六升分	一圓五錢	八錢

東京は本舗にて大阪は支店にて配達す●為替は東京は神田郵便局又は三井銀行へ大阪は順慶町郵便局又は三井銀行へ振込あれ●郵劵代用は一割増し

効能

身體の薄弱なる人、過度に精神を勞する人、婦人産前産後、記臆力の弱き人、忍耐の乏しき人、氣力減乏貧血諸症、諸病の衰弱過淫より來る衰弱、諸出血より來る衰弱、病後の恢復期等に効顯著なり
又肺病胃病患者に最良の滋養飲料たるとは諸大醫の實驗證明せらるゝ所なり

諸大醫證明之例

海軍々醫總監 貴族院議員 醫學博士 **高木兼寛君證明** 貴舗製の「ヘルス」は滋養に富み飲用し易きを以て患者は勿論無病者と雖も之を服用すれば其健康に大なる裨益ある者と認む

山龍堂病院長 從六位醫學博士 **樫村清徳君證明** 貴舗製造の「ヘルス」は實驗日尙ほ淺しと雖も蛋白質に富み消化容易にして頗る滋養に適するものと信ず

婦人科產科專門 櫻井病院長醫學士 **櫻井郁二郎君の證明** 貴店製造の「ヘルス」は分拆表に依ればば有効無比の良品たると贊成致候

此類ノ證明夥多アレ圧紙幅限アルヲ以テ掲載スルヲ得ズ

注意

「ヘルス」は賣藥に非ず取次をなすに面倒なく病人は勿論一般無病者を得意とするか故に販路最も廣し摸造品あり「ヘルス」の三字に注意せられよ

「ヘルス」は日本全國有名なる藥種商賣藥商洋酒店罐詰店料理店雜貨店等に販賣せり

● **取次望ノ人ハ至急御申込アレ取次規則送附スベシ**

ヘルス發賣元

東京神田區鍛冶町 電話千八十二番 **森田商店**

大阪心齋橋筋南久太郎町 **森田支店**

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地 秀英舍印行